



DxO
FilmPack 5

銀塩フィルムの魅力を再発見

ユーザーガイド

Microsoft® Windows® | Apple® OS X®

日本

Copyright © DxO Labs 1999-2015. All rights reserved.

写真クレジット : Jens Schlenker, Cath Schneider, Andrea Bagnasco
テキスト : Gilles Théophile

DxO FilmPackについての詳しい情報 : www.dxo.com

商標

DxO はユーロ圏ならびに他の国におけるDxO Labs の登録商標です。 Adobe、 Photoshop、 Photoshop Lightroom はAdobe Systems の登録商標です。 Mac OSX、 Mac logo は米国ならびに他の国におけるApple, Inc. の商標です。 Microsoft、 Windows、 Windows XP、 Windows Vista、 Windows 7 はMicrosoft Corporation の登録商標です。 その他のトレードマークは各社の商標です。 このガイドに含まれる情報は現状のまま提供されます。

特許

DxO Labs 社はDxO 製ソフトウェアを保護する特許を所有しています。 これらの特許のリストは以下のURL で参照いただけます : www.dxo.com/fr/patents.

謝辞

DxO FilmPack 5 は以下の著作物を利用しています :

JPEG

Portions of this software utilize the work of the Independent JPEG Group.

TIFF

Portions of this software utilize TIFF format.

Copyright © 1988-1997 Sam Leffler

Copyright © 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED «AS-IS» AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

QuaZIP

Portions of this software utilize QuaZIP technology.

Copyright © 2005-2011 Sergey A. Tachenov

Qt SDK

This software is based in part on The QT framework. This software is © John Doe 2011. It is licensed under the LGPL license.

OpenSSL

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com) . This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

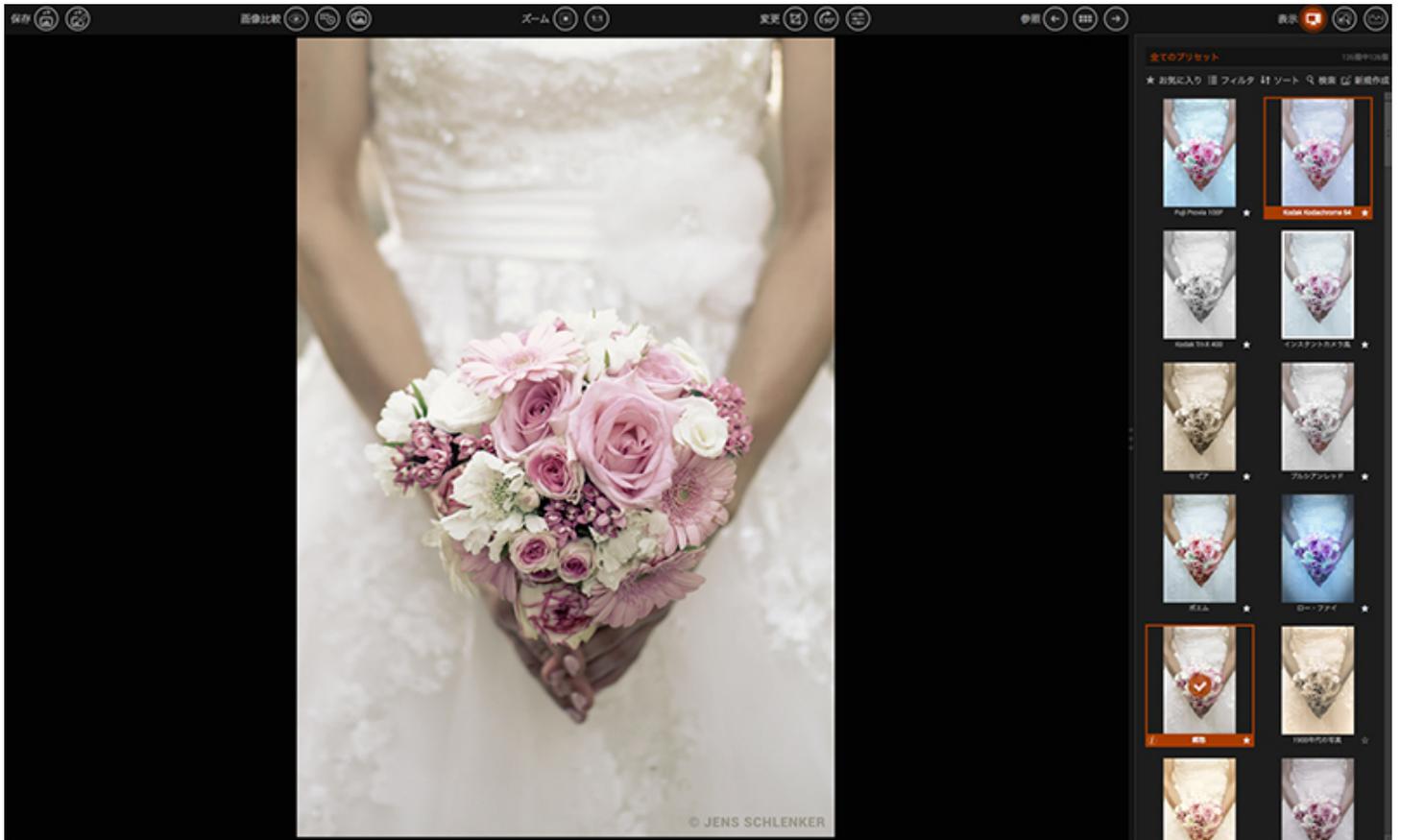
このガイド内に記載されている項目は、記載されている以上ではありません。 DxO Labs はこの文章に記載されているソフトウェアを使用する、使用しないに関わらず、このガイドに記載されている項目によって生じた直接的、間接的、過失、を含むいかなる損害についても責任を負いません。

目次

はじめに	1
ようこそ	1
エディション別機能早見表、システム環境	3
登録、インストール、ライセンス認証	4
を使って画像補正をする	6
ワークフロー	6
プリセットを使って画像を補正し保存する	8
ユーザ・プリセットを作成し適用する	10
DxO FilmPack 5とワークフロー	12
DxO FilmPack 5バージョン、対応ファイルフォーマット	12
ホストアプリケーションでのワークフロー	13
ホストアプリケーションとの連携ワークフロー	14
DxO FilmPack 5ワークスペース	15
画像ブラウザ	15
メインインターフェース	17
メニュー	23
プリファレンス(環境設定)	24
プリセットを適用する	25
銀塩フィルムのプリセットとデザイナーズ・プリセットを適用する	25
諸補正ツールで画像を補正	28
効果の適用	32
フィルム・セクション	32
レンズ効果	35
グラフィック効果 (ELITE版のみ)	39
ユーザープリセットとお気に入り (Elite版のみ)	41
スナップショット (Elite版のみ)	43
バッチ処理 (Elite版のみ)	45
クロップ	47
Facebookへエクスポート	48
プリント	49
付録 - フィルム索引	51
カラーポジフィルム	51
カラーネガフィルム	53
モノクロフィルム、モノクロフィルム	54
キーボードショートカット	56

はじめに

ようこそ



DxO FilmPack

5をお買い上げいただきありがとうございます。写真の歴史を築いた銀塩フィルムのデジタル写真でのシミュレーションの忠実度において定評のあるDxO

FilmPackには、更に、オリジナルなプリセット、フィルタ、調色処理、様々な効果があり、それら全てを組み合わせる事が出来ます。

RAW現像機能

RAW現像機能が追加されたことで、DxO

FilmPack

は撮影に使われたカメラのキャリブレーションデータをフルに活用して銀塩フィルムの色調を非常に忠実に再現することが可能になりました。

RAW画像は、撮影時の色情報に変更が加えられていないため、DxO

FilmPack独自の機能〔色彩保護〕が、より効果的に働きます。DxOのRAW現像のノウハウを生かし、DxO

FilmPackは全くの自動で画像内の光学的欠陥（ディストーション、ヴィネット、色収差）を補正し、デジタルノイズを効率よく除去します。

「高忠実度」の80種類以上の銀塩フィルムのプロファイル

DxO

FilmPackのフィルムプロファイルは、DxO

専用ラボで独自の科学的なキャリブレーションプロセスを通し、それぞれのフィルムを特性を分析することで開発されます。キャリブレーション用ターゲットや実物の被写体を実際に銀塩フィルムを使って撮影し、評価の高いプロのラボ（フランスのPICTO者とアメリカ合衆国のDuggal）で現像、それから高解像度のデジタルスキャンを行い、フィルムの持つ光反応性を測定し、粒子の構造を解析します。このプロセスにより、83種類の伝説的な銀塩フィルムのスタイル、色調、粒状感などを非常に「忠実度の高い」クオリティで再現できます。フィルムの種類も多様で、カラーとモノクロ・ネガフィルム、スライドフィルム、インスタントフィルムなどがあります。

人間工学に適ったインターフェース

DxO

FilmPack

のインターフェースが刷新され、よりシンプルに直感的になりました。〔フォルダブラウザ〕が組み込まれ、フォルダに入っている画像を一目で

確認できるようになりました。また右側の〔コントロールパネル〕に集約された、レンダリング、効果、設定に簡単にアクセスできます。銀塩フィルムでもデザイナーズ・プリセットでも、カラーでもモノクロでも、自分の好みに合ったスタイルを選択できます。調色処理やフレームなどの効果も自由に組み合わせることが可能です。サムネイル画像をクリックすると補正が即座に適用されます。もっとクリエイティブな画像テストを求める人には、〔設定〕タブに様々なパラメータのスライダーが用意されています。〔お気に入り〕タブには自分がよく使うプリセットを登録でき、〔プリセット検索〕を使えば、多くのプリセットの中から自分の探すものを簡単に検索できます。

デザイナーズ・プリセット：一風変わった画像感

DxO

FilmPack

には、39種類のカラーとモノクロのオリジナルなクリエイティブなプリセットが用意されています。ヴィンテージ風、古い写真、ありえない色調など、一風変わった画像感を画像に適用できます。プリセット〔ポエム〕は、暖かい色調で古いアメリカのTVシリーズの色あせた感じを出し、〔赤トーン〕は、全体の色調を暖かくすることで夜景の光を強調し、〔1900年代の写真〕は、セピアの優しさに細かい粒子をプラスします。

オリジナルな効果：写真に更なる演出を

数多くの効果を画像に簡単に適用することが出来ます。

〔テクスチャ〕パレットには、傷、しみ、水彩紙、しわくちゃの紙が用意されていて画像をヴィンテージ風に演出できます。また、効果の強さや方向を調整したり、更にヴィンテージ風を強調したいのであればDxO

FilmPack

の〔調色処理〕を使うことも出来ます〔光漏れ〕パレットでは、偶然起こるフィルムの感光をシミュレートし、画像の端の部分の露光オーバーや彩度を再現します。自分の好きなタイプの効果を選択し、方向、強さ、位置を変えることも出来ます。DxO

FilmPack

には、黒や白など約20種類の〔フレーム〕が用意されています。フレームの種類は、額装マット、暗室、スライド、インスタント、ガラス、古い紙です。フレームを画像の中、あるいは外に配置するか、そしてフレームの幅を選ぶことも出来ます。

プラグイン版とスタンドアロン版

数DxO FilmPackには、スタンドアロン版以外にもAdobe Photoshop、Adobe Photoshop Elements、Adobe Photoshop Lightroom、Apple Aperture、DxO OpticsPro用のプラグインが用意されています。スタンドアロン版とは、DxO OpticsPro用のプラグインでは、TIFF / JPEG / RAW画像を直接開いて簡単に補正できます。他のプラグイン版では、Adobe や Appleのホストアプリケーションのワークフローに直接組み込んでDxO FilmPackの補正を利用できます。

エディション別機能早見表

DxO FilmPack 5 (Mac とWindows) には、ESSENTIAL版とELITE版の2つのエディションがあります。2つのエディションの違いは、利用できるプリセットと機能の数です。

	ESSENTIAL 版と	ELITE 版と
モノクロフィルム	19	38
カラー・ポジフィルム	17	27
カラー・ネガフィルム	8	17
デザイナーズ・プリセット	12	39
調色処理	6	6
カラーフィルタ	8	18
プラグイン版とスタンドアロン版	•	•
クリエイティブ・ヴィネット	•	•
ハイライト部とシャドウ部別の調色処理		•
ブラー		•
RAW画像のサポート*		•
微細コントラスト		•
クリエイティブな効果 (フレーム、テクスチャ、光漏れ)		•
自動補正 (ノイズ除去、光学補正、色彩保持)		•
明度、トーンカーブ)		•
バッチ処理		•
ユーザ・プリセット		•
プリセットのインポート/エクスポート		•
スナップショット		•

システム環境

DxO FilmPack 5 をご利用いただくためには、お使いのコンピュータが少なくとも以下の仕様を満たしていることを確認してください：

Microsoft Windows

- Intel Core 2 Duo、AMD Athlon™ 64 X2またはそれ以上
- 2 GBのメモリ容量 (4 GBを奨励)
- 400 MBの空きディスク容量
- Microsoft Windows 7 (64ビット)、Microsoft Windows 8 (64ビット)、Microsoft Windows 8.1 (64ビット)

OS X

- Intel Core™ i5 またはそれ以上
- 2 GBのメモリ容量 (6 GBを奨励)
- 400 MBの空きディスク容量
- OS X 10.8 (Mountain Lion)、10.9 (Mavericks)、10.10 (Yosemite)

登録、インストール、ライセンス認証

 以下のステップにはインターネット接続が必要です。

登録

ソフトウェアのライセンス認証を行うには、ライセンス認証コードのお客様アカウントへの登録が必要です。DxOウェブサイト (<http://www.dxo.com/CD>)を開きます。アカウントをお持ちでない場合は、オンラインフォームに必要事項を入力して登録してください。

ダウンロード

お客様アカウントページ内には、ソフトウェアに関する重要なお知らせと、DxO FilmPack 5インストーラダウンロードリンクが用意されています。このリンクからダウンロードすることで、常に最新版のプログラムをインストールすることができます。WindowsまたはMacのボタンをクリックしてダウンロードを開始します。

ダウンロードが完了したらアイコンをダブルクリックして、指示に従ってインストールを実行します。

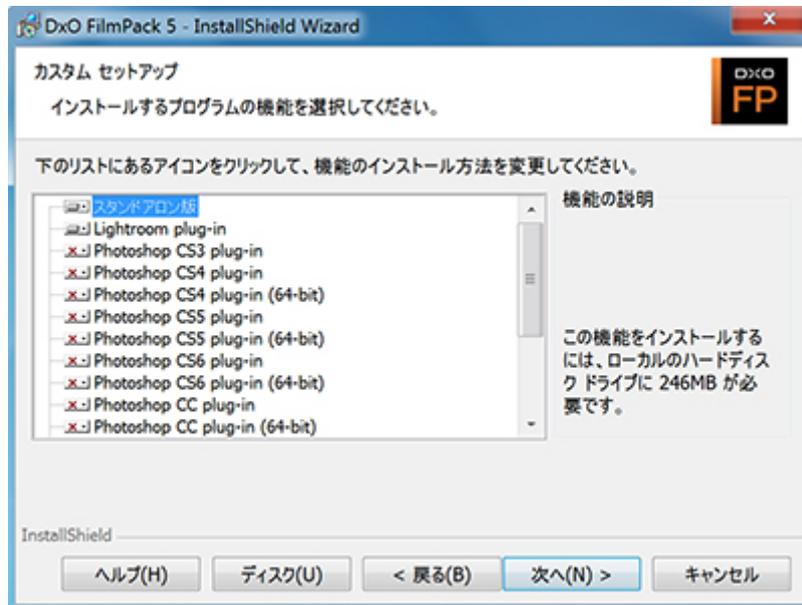
インストール

Microsoft Windows

DxO FilmPack 5のインストーラには以下の3つのプログラムが含まれています：

- Microsoft Windows用のスタンドアロンアプリケーション
- DxO Optics Pro 用のプラグイン
- Adobe Photoshop、Adobe Photoshop Elements、Adobe Photoshop Lightroom、Apple Aperture 用のプラグイン

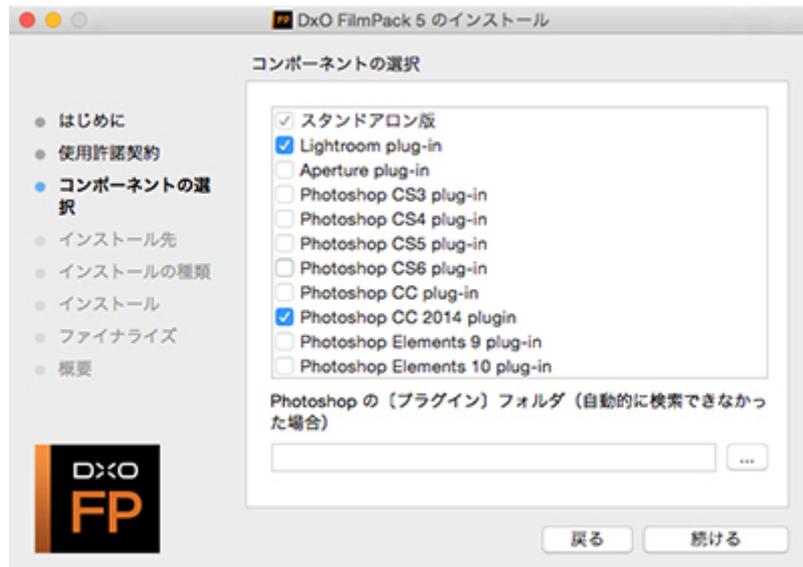
標準インストールとカスタムインストールが選択できます。標準インストールではすべてのプラグインがインストールされます。カスタムインストールではインストールするプラグインを選択することができます。



新規ウィンドウが開いてDxO FilmPack 5をインストールするフォルダを選択します。Adobe Photoshopプラグインフォルダのディレクトリを自動で認識できない場合は、参照ボタンをクリックして適切なフォルダを指定します。インストールをクリックして、インストールを開始します。

OS X

使用許諾に同意したら、次へをクリックします。インストールしたいコンポーネントを選択できる画面が開きます。



新規ウィンドウが開いてDxO FilmPack 5をインストールするフォルダを選択します。Adobe Photoshop プラグインフォルダのディレクトリを自動で認識できない場合は、参照ボタンをクリックして適切なフォルダを指定します。インストールをクリックして、インストールを開始します。

ライセンス認証

ライセンス認証コードは、パッケージ内またはDxOのウェブサイトのお客様アカウント内に用意されています。最初にDxO FilmPack 5を起動すると、アプリケーションのライセンス認証を促すウィンドウが表示されます。認証しないとデモ版での利用となります。ライセンス認証コードを適切なフィールドに入力して、ライセンス認証ボタンをクリックします。

 DxO FilmPack 5 のESSENTIAL版の場合は2台、ELITEの場合は3台のコンピュータ上でお使いいただけます (Mac / Windowsを問わず)。

アンインストール

Microsoft Windows

Microsoft Windowsでは、スタート > プログラム > DxO FilmPack > DxO FilmPackのアンインストールを実行します。

OS X

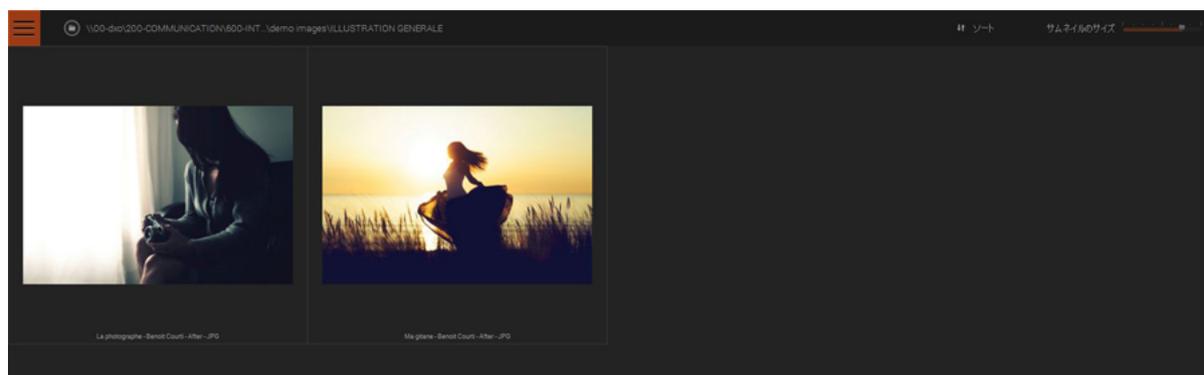
Mac OS X ではアプリケーション > DxO FilmPack > アンインストールを実行します。

DxO FilmPack 5 を使って画像補正をする

ワークフロー

ファイルを開く

1. [スタート]メニュー > [プログラム] > DxO filmPack 5を選択するか (Windows) 、 [アプリケーション] ウィンドウ > DxO FilmPack 5 (Mac) を選択して起動する。
2. 起動すると [画像リスト] にデモ画像が表示されます。サムネイル画像上でダブルクリックすると補正セクションに切り替わります。
3. ハードディスク上の別の画像を開くためには、(Windows) 左上の [メニュー] ボタンをクリックするか、(Mac) [ファイル] メニューに行き、 [画像を開く] か [フォルダを開く] コマンドを選択します。
4. システムのダイアログボックスが開いたら、開くファイルまたはフォルダを選択します。
5. 選択したファイルやフォルダの中身が [画像リスト] 内に表示されたら、補正するために開きたいサムネイル画像の上でダブルクリックします。



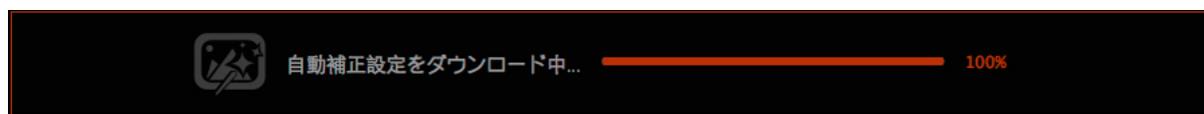
画像リストは、DxO FilmPack 5 のスタンドアロン版に組み込まれた画像ファイルのブラウザです。

i DxO FilmPack 5のスタンドアロン版は、RAW / DNG (Elite版のみ) とTIFF / PSD / JPEGを読み込むことができます。

自動補正の適用

RAW画像、またはAdobe社製のソフトウェアから出力されたDNG

画像を開くと、画像に対応する光学モジュールがダウンロードされコンピュータ内にインストールされます。モジュールの適用に曖昧性が残る場合、DxO FilmPack 5が、どのカメラとレンズで撮影されたかどうか確認のために聞いてきます。



光学モジュールのダウンロードのためのダイアログボックス]



自動補正適用の確認]

光学モジュールがインストールされると、DxO FilmPack 5は、以下の自動補正を実行します。

- ノイズ除去
- 光学的補正
- 彩度過多補正



〔自動補正〕パレット

〔諸補正ツール〕パレット内の補正ツールを使って補正や調整をすることができます。

DxO

- ① 光学モジュールのダウンロードには、インターネットへの高速接続が必要になりますが、モジュールを予めダウンロードしておき、接続を切った状態で、手動でインストールすることもできます。

DxO FilmPack 5は、スタンドアロン版、ホストプログラムのプラグイン版、またDxO OpticsProのプラグイン版としてご利用いただけます。

DxO OpticsPro用プラグイン :補正パレットに内蔵された〔DxO FilmPack〕パレットから、直接プリセットや補正ツールを適用できます。

- Lightroom用プラグイン : Lightroom内で画像を選択し、メニューバーから〔写真〕> 他のツールで編集 > DxO FilmPack 5を選択します。必要に応じてエクスポートのダイアログボックスでファイル形式変更し (TIFF / PSD / JPEG)、〔編集〕ボタンをクリックします。
- Photoshop / Photoshop Elements用プラグイン : 画像をPhotoshop またはPhotoshop Elements内で開き、メニューバーから〔フィルタ〕> DxO Labs > DxO FilmPack 5を選択します。
- Aperture用プラグイン : Aperture内で画像を選択し、〔写真〕> 他のツールで編集 > DxO FilmPack を選択します。

プリセットを使って画像を補正し保存する

DxO FilmPack

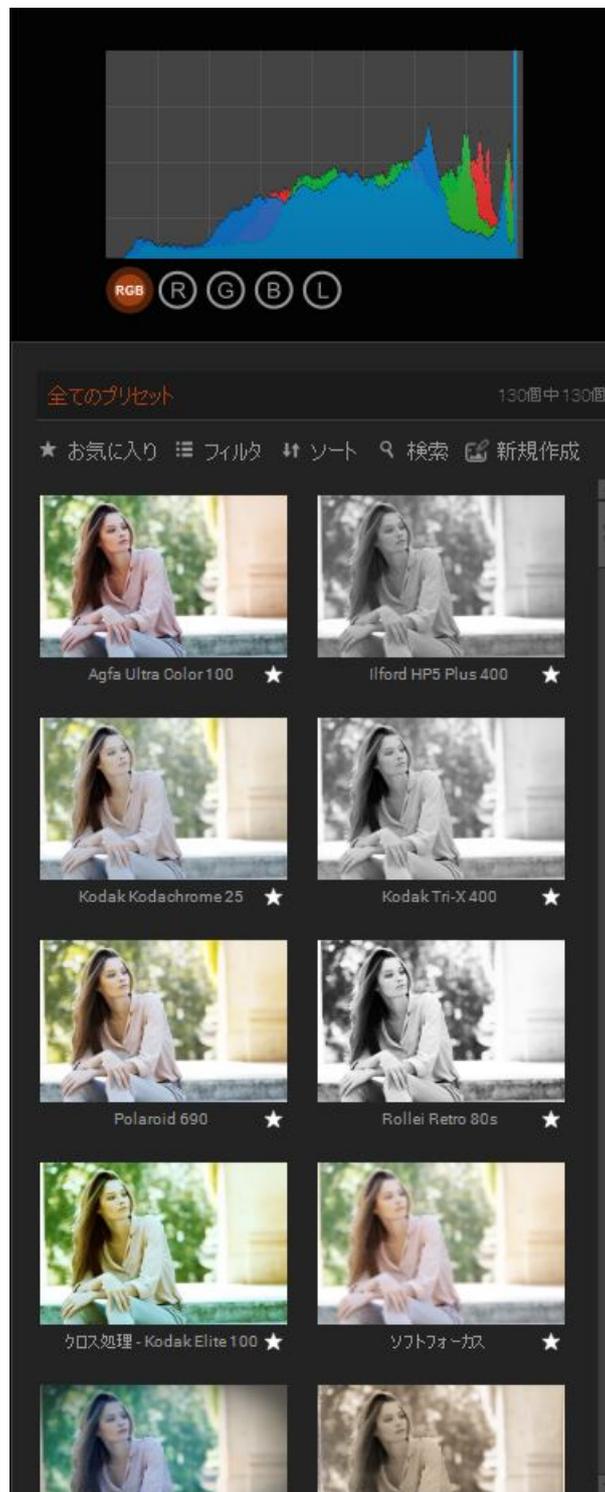
5には、様々なカラーやモノクロのレンダリングが用意されています。その種類は銀塩ネガフィルムやスライドフィルム、そしてデザイナーズ・プリセットと多岐に渡ります。銀塩フィルムのプリセットには、該当フィルムの色調、コントラスト、全体の感じ、粒状感をシミュレートするためのパラメータが設定されています。デザイナーズ・プリセットを使えば、アーティストックでクリエイティブなレンダリングを実現できます。

DxO FilmPack 5 Elite

-  版のライセンスをお持ちの場合、自分でプリセットを作成することができます。作成したユーザ・プリセットは、例えばバッチ処理（第3章参照）に使うことができます。

画像を開いて補正する

- ステップ1：第1章の手順に従って画像を開きます。
- ステップ2：画面右の〔プリセットパネル〕から、好きなプリセットを選択します。
- ステップ3：必要に応じて〔変更〕メニューの〔画像の補正設定を変更する〕ボタンをクリックし、〔コントロールパネル〕に移動して、更に補正を行います。
- ステップ4：補正設定した画像を保存する場合、〔保存〕メニューの1番目の〔名前をつけて画像を保存〕ボタンをクリックします。
- ステップ5：ダイアログボックスが表示されたら、画像を保存する場所と画像形式（TIFF / JPEG）を選択し、必要に応じ名前を変更したら〔保存〕ボタンをクリックします。指定した場所に補正した画像ファイルが保存されます。



プリセットパネル)

i 表示されるプリセットの種類と順番は、右のプリセットパネルでのフィルタとソートで何を選択したかによります。

i TIFF またはJPEG画像の場合、〔画像の保存〕コマンドを選択すると、DxO FilmPack 5で補正した補正画像で元画像を上書きします。〔名前をつけて画像を保存〕を選択すると、上書きはせず新しい画像を保存します。

これは、Photoshop または Photoshop Element用のプラグイン版でも同様です。Lightroom と Apertureの場合、画像を保存すると自動的にホストアプリケーション上に新しい画像を保存します。

ユーザ・プリセットを作成し適用する

DxO FilmPack 5

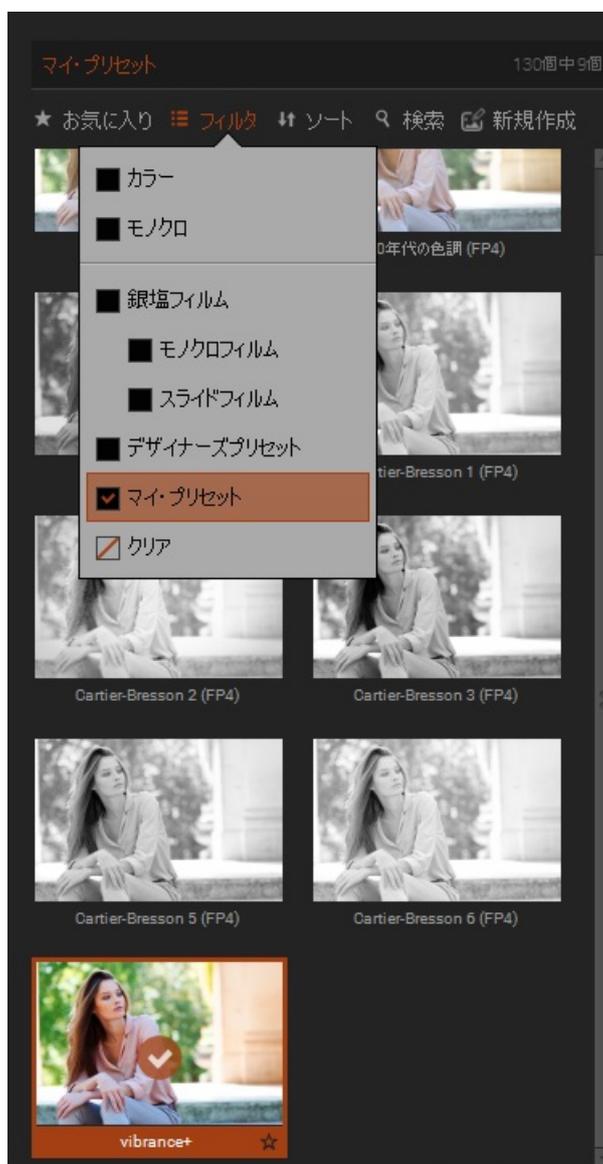
には、カラーとモノクロのクリエイティブなプリセットやレンズ効果/グラフィック効果が数多く用意されています。様々なプリセットをクリエイティブな効果と組み合わせることによって、無限の可能性を追求できます。

Elite

版では、ユーザ・プリセットという形で、補正設定を保存することができます。一旦保存したユーザ・プリセットは、他の画像にも適用できるだけでなく、プリセットのエクスポート/インポート機能を使えば、DxO FilmPack 5 の他のユーザと共有することが可能です。

ユーザ・プリセットを作成する

- ステップ1 : DxO FilmPack 5で画像ファイルを開く。
- ステップ2 : プログラムに内蔵してあるプリセットの中から選んで適用し、自分の好みに画像の補正をする（色相/再度/明度、トーンカーブ、チャンネルミキサー、フレーム等）。
- ステップ3 : 画面上方のコマンドバーから、〔保存〕メニューの2番目の〔ユーザ・プリセットを作成し保存〕ボタンをクリックする。
[icon-01.jpg]
- ステップ4 : ウィンドウが開いたら、プリセット名を入力し、〔保存〕ボタンをクリックする。
- ステップ5 : 作成したユーザ・プリセットを画面右のプリセットパネルに表示するには、〔フィルタ〕ボタンをクリックして〔マイ・プリセット〕をチェックします。



マイ(ユーザ)・プリセットの表示

ユーザ・プリセットをエクスポートする

- ステップ1：画面左上の〔メニュー〕ボタンをクリックし〔プリセットのインポート〕 > 〔全てのユーザ・プリセットをエクスポート...〕を選択します (Windows)。または、〔ファイル〕メニュー > 〔全てのユーザ・プリセットをエクスポート...〕を選択します (Mac)。
- ステップ2：システムのダイアログボックス内で、エクスポート先となるフォルダを選択して〔フォルダの選択〕をクリックします。
- ステップ3：ユーザ・プリセットは、前のステップで選択したフォルダ内に、インストラクションファイルの形で保存されます。メールなどを使って他のユーザと共有することができます。

ユーザ・プリセットをインポートする

- ステップ1：画面左上の〔メニュー〕ボタンをクリックし〔プリセットのインポート〕 > 〔プリセットのインポート〕を選択します (Windows)。または、〔ファイル〕メニュー > 〔プリセットのインポート〕を選択します (Mac)。
- ステップ2：システムのダイアログボックス内で、インポートするユーザ・プリセットが入っているフォルダを探します。
- ステップ3：インポートするユーザ・プリセットを1つまたは複数選択して〔開く〕をクリックします。直ぐに、DxO FilmPack 5内でユーザ・プリセットが利用できます。

 プリセットのエクスポートで出力されたファイルは数キロバイトしかなく、簡単にコンピュータ間の移動やメールへの添付が可能です。

DxO FilmPack 5とワークフロー

DxO FilmPack 5 バージョン

DxO FilmPack は 3 つのバージョンからなっています：

- DxO FilmPack 5はスタンドアロンアプリケーションとして利用できます。
- DxO FilmPack 5は以下のアプリケーションのプラグインとして利用できます：
 - Adobe Photoshop CS3、CS4 (32-/64-bit)、CS5 (32-/64-bit)、CS6 (32-/64-bit)、CC (32-/64-bit)
 - Adobe Photoshop Elements 9、10、11、12、13
 - Adobe Photoshop Lightroom 3、4、5
 - Apple Aperture 3
- DxO Optics Pro用プラグイン版：DxO FilmPackは専用パレットという形でDxO OpticsProのワークフローに完全に組み込まれ、快適かつ効率的に作業が出来ます。RAW形式の非破壊補正ワークフロー内で、画像を一度に補正することが可能です。

DxO FilmPack

-  5はスタンドアロンアプリケーションとプラグインの両方を同時にインストールできます。どちらのバージョンも利用場面に合わせて使えます。

対応ファイルフォーマット

DxO FilmPackでサポートされる画像のファイル形式は、使い方によって変わります：

- スタンドアロン版：RAW形式、およびJPEGとTIFF形式 (RGB、8 / 16ビット)
- 外部エディタ版 (Lightroom / Aperture) またはプラグイン版 (Photoshop / Photoshop Elements)：JPEG et TIFF JPEGとTIFF形式 (RGB、8 / 16ビット)
- プラグイン版 (DxO Optics Pro)：RAW形式、およびJPEGとTIFF形式 (RGB、8 / 16ビット)

スタンドアロン版とのワークフロー

DxO FilmPack

5はJPEGとTIFF画像、そしてRAW画像（Elite版のみ）をサポートしています。RAW画像に関しては、DxO光学モジュールを使って、色調の保持、ノイズ除去、光学補正（ヴィネット、ディストーション、色収差）を全くの自動で行うことが可能です。RAW画像の現像に関してユーザーが手動で行う作業はありません。

RAW画像現像のワークフロー（Elite版のみ）

1. ファイルメニュー>開く（Mac版）、またはメニュー>フィルを開く（Windows版）を使ってファイルを開きます。
2. システムのダイアログボックスが開いたら、RAW画像を選択して開くをクリックします。
3. DxO FilmPack 5内で画像ファイルが開くと、自動補正設定をダウンロード中のメッセージが表示されます。
4. ダウンロードが終了すると、FilmPack内で自動補正が適用できるようになったと表示されます。
5. OKをクリックします。
6. 補正が自動的に適用されます（処理中...のメッセージが画像上に表示されます）。
7. カラー、またはモノクロの画像補正が可能になりました（第5章と第6章参照）。

JPEGまたはTIFF画像のワークフロー

1. ファイルメニュー>開く（Mac版）、またはメニュー>フィルを開く（Windows版）を使ってファイルを開きます。
2. システムのダイアログボックスが開いたら、JPEGまたはTIFF画像を選択して開くをクリックします。
3. カラー、またはモノクロの画像補正が可能になりました（第5章と第6章参照）。

DxO光学モジュールについて

DxO FilmPack 5は、DxO OpticsProと同じモジュールを使用します。モジュールの管理は以下のように行われます：

1. FilmPackがDxO光学モジュールの曖昧性を検知するとダイアログボックスが開き正しいモジュールを選択するように聞いてきます。
2. モジュールのアップデートは必要があるときのみ行われます。
3. インターネットに接続されていないためモジュールのダウンロードが出来ない場合、FilmPackは警告メッセージを表示しません。
4. DxO OpticsProが既に光学モジュールをダウンロードしている場合、FilmPackは既にダウンロードされているモジュールを適用します。

ホストアプリケーションとの連携ワークフロー

DxO
FilmPack

はホストアプリケーションと簡単に連携ワークフローを作成できます。プラグインとして機能し、ホストアプリケーション内で開いている画像をDxO FilmPackで直接開くことができます。

Adobe Photoshop Lightroom のプラグインとして利用

1. Adobe Photoshop Lightroomで画像を開きます。
2. 写真 > 他のツールで編集 > DxO FilmPack メニューから DxO FilmPack 5 を起動します。編集したい画像の上で右クリックして他のツールで編集 > DxO FilmPack メニューからも起動できます。
3. Lightroom のオプションダイアログボックスが開きます。このオプションは、Adobe Photoshop Lightroomで編集済みの画像を DxO FilmPack 5 で開く場合に利用します。
4. 書き出すファイルフォーマット (TIFF または JPEG) と、ビット数 (8- または 16-bit) を選択します。16-bits の方が高品質ですが、ファイルサイズは大きくなります。解像度は通常そのままにしておきます。圧縮オプションはなしを選択しておきます。
5. 編集ボタンをクリックして DxO FilmPack 5 を起動します。
6. 編集が終わったら、DxO FilmPack 5 ウィンドウの下にある保存ボタンをクリックして、アプリケーションを終了し Adobe Photoshop Lightroom に戻ります。編集された画像が表示されています。

Adobe Photoshop や Photoshop Elements のプラグインとして利用

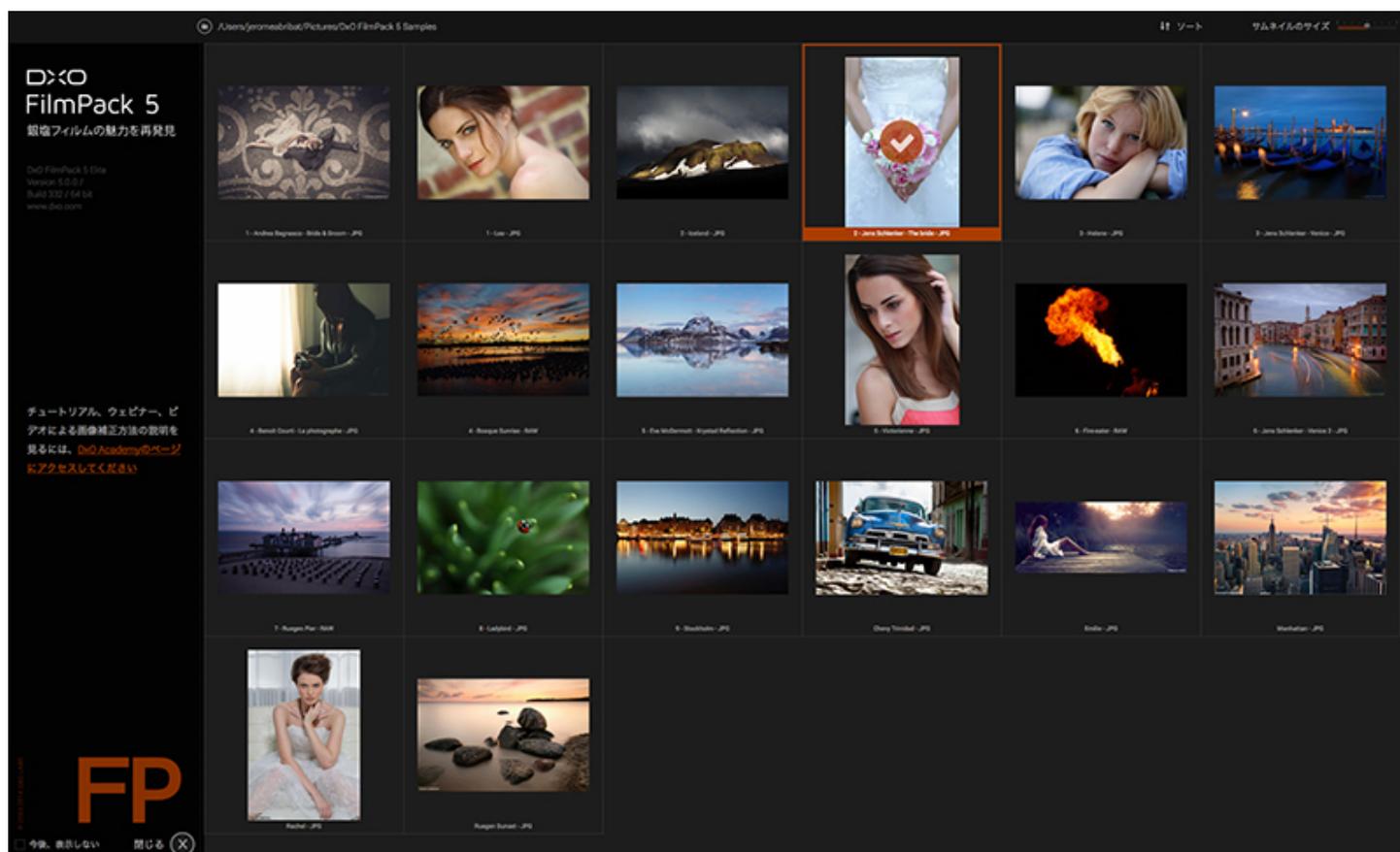
1. フィルタ > DxO Labs > DxO FilmPackメニューからDxO FilmPack 5アプリケーションを起動します。
2. DxO FilmPack 5内で画像が開きます。
3. 編集が終わったら、DxO FilmPack 5 ウィンドウの下にある保存ボタンをクリックして、アプリケーションを終了し Adobe Photoshop または Photoshop Elements に戻ります。編集された画像が表示されます。

Apple Aperture の外部エディタとして利用

1. 写真 > プラグインで編集 > DxO FilmPack 5メニューから、Aperture の外部エディタモードでDxO FilmPack 5を起動します。編集したい画像を右クリックしてプラグインで編集 > DxO FilmPack 5メニューから開くこともできます。
2. Aperture 環境設定 > 書き出しメニューでファイルフォーマット (8-または16-bit TIFF) を選択します。
3. 編集が終わったら、DxO FilmPack 5ウィンドウの下にある保存ボタンをクリックして、アプリケーションを終了しAperture に戻ります。編集された画像が表示されています。

DxO FilmPack 5ワークスペース

画像ブラウザ



DxO

FilmPack

を起動すると、画像のリストが表示されます。ここで、コンピュータ内で利用できる画像を選択することができます。最初の起動時には、アプリケーションと一緒にインストールされたデモ画像が表示されます。

画像フォルダを開く



画面上のフォルダを開くボタンをクリックすると、コンピュータのハードディスク上にある、全ての画像にアクセス可能です。

以下の方法でも同様です。

1. Mac: ファイルメニュー > フォルダを開くを選択します。
2. Windows: 画面左上のメニューボタン > フォルダを開くを選択します。

どちらの場合も、システムのウィンドウが開き、フォルダを選択することができます。

画像を開く

フォルダ内の画像はサムネイルで表示されます。DxO FilmPackで補正処理するためには、以下の方法で画像を開くことができます：

1. サムネイル上でダブルクリックします。
2. サムネイル上で右クリックをし、コンテキストメニューから開くを選択します。
3. サムネイルを選択し、Enterキーを押します。

 最近開いたフォルダや画像ファイルにアクセスできます：ファイル > 最近使ったフォルダを開くを選択するか (Mac)、メニューボタン

>

- ① ファイル（フォルダ）を開くを選択し、コンテキストメニュー内に番号付き表示されるファイル（フォルダ）の中から選択します（Windows）。

サムネイル上で右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。ここから以下の機能にアクセスできます。

1. 開く：選択した画像をDxO FilmPackで補正処理するために開きます。
2. 名称変更：画像のファイル名を直接サムネイル画像上で変更できます（一度に一枚）。
3. 削除：画像を一枚または複数同時に削除できます。
4. エクスプローラを表示（Windows）、または：Finder内（Mac）：画像の入っているフォルダを、OSのシステムウィンドウ内で開きます。

⚠ 削除コマンドを使うと、画像をハードディスク上から削除します。手違いで削除した場合でも、コンピュータのゴミ箱から取り出せます。

画像のソート

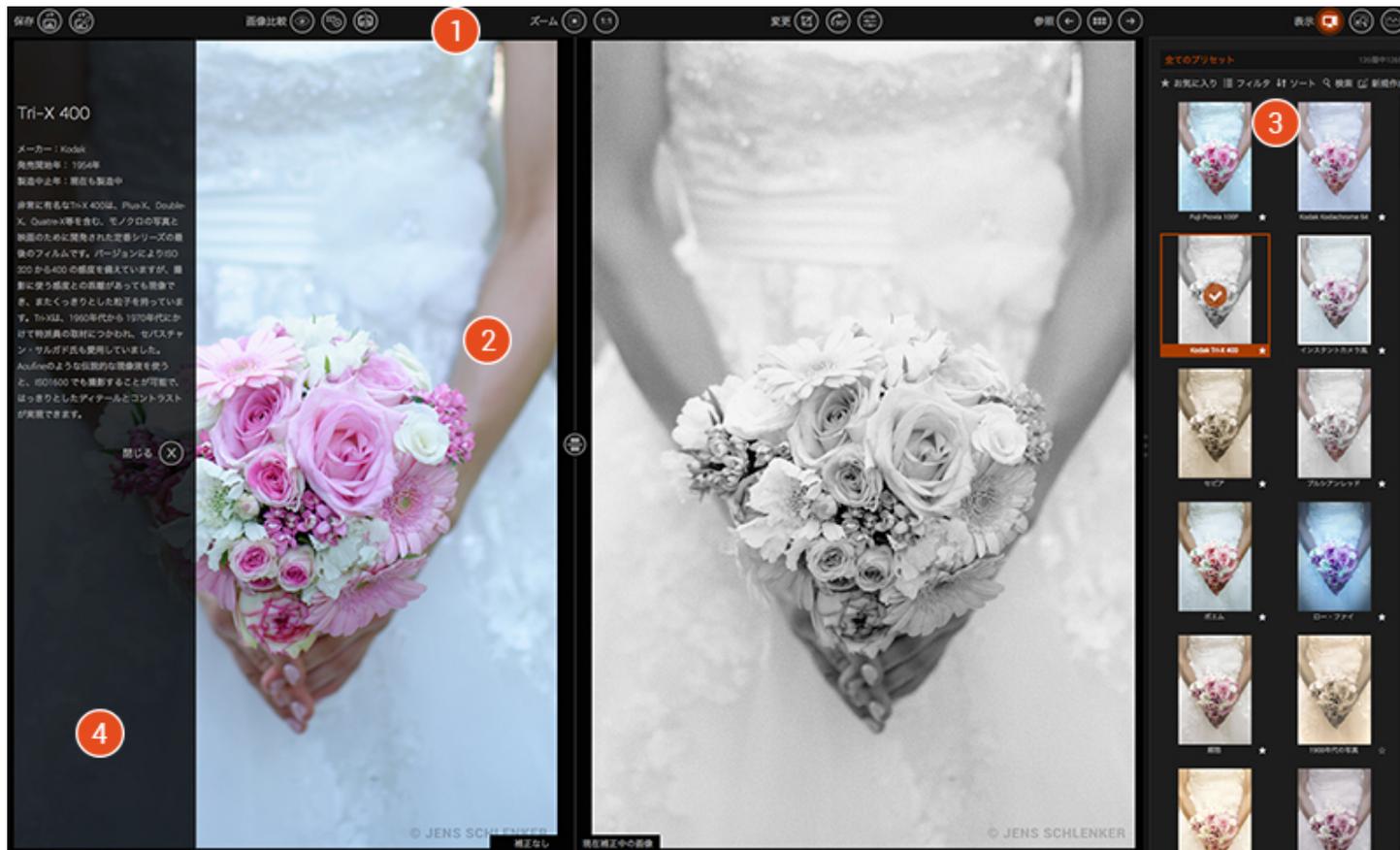


画面右上のソートメニューは、以下の条件の昇順または降順で画像をソートできます：撮影日時、変更日時、アルファベット順、ファイル形式。

サムネイルのサイズ

画像リスト内のサムネイル画像のサイズは、画面右上にあるスライダを使って調節することができます。

メインインターフェース



DxO FilmPackのインターフェースは4つに分かれています：

1. コマンドバー：保存、比較、ズーム、変更、ナビゲータ、表示、画像リストへのアクセス等の機能があります。
2. 画像の表示スペース
コントロールパネル：銀塩フィルムプリセット、デザイナーズ・プリセット、ユーザ・プリセット、お気に入りプリセットのプレビューと、カラーとモノクロ画像用の補正ツール、レンズ効果とグラフィック効果があります。
4. 情報パネル：銀塩フィルムの歴史やデザイナーズ・プリセットの説明を表示します。

ツールバー

DxO FilmPack 5 の画面上部のツールバーには以下の機能があります：



メニュー（Windowsのみ）：画像を開く、保存、全画面表示などのコマンドにアクセスできます。

保存



名前を付けて画像を保存：画像に適用した補正設定を保存できます。



ユーザ・プリセットを作成し保存：現在の補正設定を保存して、ユーザ・プリセット（マイ・プリセット）を作成できます。

比較



参照画像と比較する：現設定を反映した画像と参照画像として設定した元画像やスナップショットを比較することができます。



参照画像を変更する：
補正をしていない元画像やスナップショットを、比較の対象とする参照画像として選択できます。このウィンドウ内でスナップショットを作成することもできます。



1画面プレビュー / 2画面並列プレビュー / 1画面2分割プレビュー：
1画面プレビュー（現設定を反映した画像）から、2画面プレビュー（補正なしの画像が左 / 補正後の画像が右、または補正なしが上 / 補正後が下）への切り替えができます。

ズーム



ズームフィット：画面のサイズに合わせて画像を表示します。



ズーム率100%：ズーム率100%（画像の1ピクセル = 画面の1ピクセル）で表示します。

変更



クロップ：画像をトリミングするためのクロップツールを選択します。



右に回転：ワンクリック 90°単位で、画像を時計回りに回転します。



画像の補正設定を変更する / プリセットに戻る：画面右側のコントロールパネルの表示を、設定モード（補正ツールと効果）とプリセット選択モードの間で変更できます。

参照



前の画像 / 次の画像：画像リスト内の画像の表示を一枚ずつ切り替えられます。



画像ブラウザに戻る：画像リストの画面に戻ります（フォルダ内の画像を表示）。

表示



コントロールパネルの表示と非表示：コントロールパネルの表示と非表示を切り替えます。



ナビゲータ：ナビゲータパレットの、コントロールパネル上方への表示と非表示を切り替えます。



ヒストグラム：ヒストグラムパレットの、コントロールパネル上方への表示と非表示を切り替えます。



画面並列プレビューと1画面2分割プレビューの場合、中心にアイコンをクリックすると、並列と分割の表示を垂直か水平にするかを変更できます。1画面2分割プレビューの場合、アイコンをクリックして分割線を画像内で移動できます。

ナビゲータ



ナビゲータパレットはデフォルトでは非表示になっています。表示するには、右上のコマンドバーにあるナビゲータアイコンをクリックするか、キーボードの[Nキー]を押します。ナビゲータを非表示にするには、同じ操作を行います。マウスカーソルをナビゲータアイコンの上に持ってくると一時的にナビゲータパレットを表示できます。

画像を拡大した時、ナビゲータパレット内に表示される四角の白枠をマウスで移動すると、画像内の移動ができます。

ヒストグラム



ヒストグラムパレットはデフォルトでは非表示になっています。表示するには、右上のコマンドバーにあるヒストグラムアイコンをクリックするか、キーボードの[Hキー]を押します。ヒストグラムを非表示にするには、同じ操作を行います。マウスカーソルをヒストグラムアイコンの上に持ってくると一時的にナビゲータパレットを表示できます。

DxO FilmPack 5のヒストグラムには、各RGBチャンネルの明度値がグラフになって表示されます。加色混合のRGB（赤、緑、青）の各チャンネルがどのように重なり合っているのを見ることができます。パレットの右側にあるボタンをクリックして、それぞれのチャンネルを個別に表示させることもできます。

- RGB : 全てのチャンネルを同時に表示します。
- R / G / B : 選択されたチャンネルのみ表示されます。
- L : 全体の明度 (luminance) チャンネルが表示されます

コントロールパネル



コントロールパネルは、DxO FilmPack

画面の右側に表示されます。ここでは、全てのプリセットの表示と画像に適用する補正を設定できます。デフォルトでは、コントロールパネルにはプリセット選択モードが表示されます。設定モードにするには、以下の方法があります：

- 補正ツールや効果の、より細かい調整をするには、画面上部のコマンドバーから画像の補正設定を変更する  ボタンをクリックします。
- プリセットの一覧に戻るには、コントロールパネルの下のプリセットに戻る  ボタンをクリックします。

コントロールパネルは、コントロールパネルを表示 / 非表示 

ボタンをクリックすることで切り替えできます。パネルの左側にマウスカーソルを持ってきて、カーソルの形が変わったら、パネル表示の幅を調整できます。

 パネル内には、セクション毎の補正パレット（フィルム、諸補正ツール、効果等）が垂直に並んで表示され

 プリセットと補正ツールについては、このユーザーガイド内の該当セクションを参照してください。

プリセットのサムネイル



プリセットのサムネイル画像には、2種類の情報が表示されます：

- お気に入り設定のステータスが、☆マークで表示されます。☆マークの上でクリックするとプリセットをお気に入りのリストに追加できます。
- 選択されたプリセットのサムネイルの左下に、このプリセットの詳細を見るアイコンが表示されます。ここをクリックすると選択されたプリセットに関する歴史や逸話などの説明文が画像表示スペースの左側に表示されます。



画面右側のコントロールパネルには、デフォルトでプリセット選択モードが表示されています。

- 1 列表示、または2列表示が可能です。コマンドバーの左端のメニューを開き、全画面表示 > プリセットの1列表示、またはプリセットの2列表示を選択します。

プリセットのフィルタと表示は、コントロールパネルの上部で行います。一番上の表示フィールドに、表示されているプリセットの内容が表示され、その下でフィルタのための条件を選びます。プリセットのフィルタのための条件は以下の通りです（左から右の順）：

1. ★お気に入り

：これをクリックすると、コントロールパネルにお気に入りとして登録されたプリセットのみが表示されます。お気に入りプリセットにはサムネイルの右下に星マークがつきます。表示フィールドには、★お気に入りと表示されます。

2. フィルタ

：これをクリックすると、プルダウンメニューが開き、フィルタのための条件（カラー、モノクロ、銀塩フィルム、デザイナーズフィルム等）をチェックできます。チェックした条件が、上部の表示フィールドに表示され、それに該当するプリセットのサムネイル画像が、その下に表示されます。

ソート

：これをクリックすると、プルダウンメニューが開き、表示するプリセットをソートする条件（お気に入り優先、アルファベット順、プリセットタイプ別）を選択できます。

4. 検索

：これをクリックすると、入力欄が表示され、プリセットや銀塩フィルムの名前を入力できます。入力された名前に該当するプリセットのサムネイルが表示されます。

5. 新機能

：画像の補正設定画面が表示され、補正ツールパレットを使って自分でレンダリングを作成することが可能です。補正設定は全てゼロになっています。

選択した条件が表示スペースに表示されます。このスペースに表示された条件の上でクリックすると選択した条件をキャンセルできます。

- 表示フィールドの右に、利用できるプリセットの数が表示されます。フィルタ条件によって数は変動します。

画像の補正パネル



コントロールパネル

には、補正パレットがあり、高度な補正を適用することが出来ます。パネルは、4つのセクション（フィルム、諸補正ツール、レンズ効果、グラフィック効果）に分かれています。

メニュー

Windows

メニューボタンをクリックすると、幾つかのセクションに分かれたコンテキストメニューが表示されます。セクションには更にサブセクションがあり、コンテキストメニューからアクセスできます。サブセクションがある場合、右端に小さな矢印があります。メニューの内容は、画像リストと処理のセクションと共通しています。

1番目のセクション：

- **ファイルを開く**：画像を開いたり、最近開いた画像を開きます。バッチ処理にもアクセスできます。
- **フォルダを開く**：フォルダを開いたり、最近開いたフォルダを開きます。
- **名前をつけて画像を保存**：名前をつけて保存、画像の保存、プリント、Facebookへのエクスポートができます。
- **閉じる**：画像を閉じたり、画像への変更を保存するためのダイアログボックスを表示します。

2番目のセクション：

- **元に戻す**：最後のアクションは補正設定をキャンセルし元に戻します。
- **やり直し**：最後のアクションや補正設定をやり直します。
- **プリセットのインポート**：プリセットのインポートや全てのユーザ・プリセットのエクスポートができます。

3番目のセクション：

- **全画面表示**
：全画面表示や全画面表示の解除、コントロールパネルの非表示、プリセットのサムネイルの1列表示または2列表示の設定ができます。

4番目のセクション：

- **ヘルプ**：オンラインヘルプ、DxOサイト、DxO Academy (チュートリアル)、アップデートの確認、ライセンス認証にアクセスできます。
- **プリファレンス**：プログラムの環境設定にアクセスできます。

5番目のセクション：

- **終了**：プログラムを閉じたり、画像への変更を保存するためのダイアログボックスを表示します。

OS X

- **DxO FilmPack 5**：現バージョンに関する情報 (DxO FilmPackについて) やプリファレンス (環境設定) にアクセスしたり、アプリケーションを閉じたりできます。
- **ファイル**
(スタンドアロン版)：新しい画像や最近開いた画像を開いたり、新しいフォルダや最近開いたフォルダを開いたり、補正設定の保存、プリント、Facebookにエクスポート、バッチ処理、プリセットのインポート/エクスポートができます。
- **ファイル** (プラグイン版の場合)：補正の保存とプリセットのインポート/エクスポートができます。
- **編集**：キャンセル/やり直すコマンドを使って、画像への補正設定をキャンセルしたり、やり直したり出来ます。
- **表示**：全画面表示、コントロールパネルとプリセットパネルの表示と非表示、画像の右回転と左回転を実行できます。
- **ヘルプ**：オンラインヘルプ、DxO Academy、DxOサイト、アップデートの確認、ライセンス認証にアクセスできます。

DxO FilmPack



5のスタンドアロン版は、画像の保存コマンドを選択すると、元画像を上書きします。名前をつけて画像を保存コマンドを選択すると、新しい画像ファイルを作成して保存し、元ファイルは上書きされません。プラグイン版では、保存ボタンは、画像の保存コマンドと同様に元画像を上書きします。

プリファレンス（環境設定）



プリファレンスのダイアログボックスは、メニューボタン（Windows）、またはDxO FilmPack 5メニュー（Mac）からアクセスできます。全般、処理、Facebookの3つのタブがあり、全般タブは、プログラムの動作に関する設定、処理タブは、JPEG画像のデフォルト品質での保存の設定、Facebookタブは、SNSのアカウントへのログインに関する設定を行います。

全般タブ

- **言語**
：プログラムの表示言語を変更できます（ドイツ語、英語、フランス語、日本語）。変更後、アプリケーションを再起動する必要があります。
背景色：画像を表示するスペースのグレー諧調を変更できます。デフォルトの設定に戻るには、スライダの上でダブルクリックしてください。
- **24時間毎にアップデートを自動確認する**
：このチェックボックスで設定を変更できます。今すぐ確認するをクリックすると、確認作業を始めます（インターネットへの接続要）。
- **ソフトウェア改善プログラムに匿名で参加することを希望します**
：このチェックボックスで設定を変更できます。このプログラムについて詳しく知りたい方は、<<ソフトウェア改善プログラム>>のリンクをクリックしてください。
- **クラッシュレポートを送信**：プログラムがクラッシュした際、クラッシュレポートを自動的に送信するかどうかを設定できます。
- **保存**：全般タブで行った変更を保存します。
- **キャンセル**：行った変更をキャンセルし、プリファレンスウィンドウを閉じます。

処理タブ

- **JPEG画像をデフォルト品質で保存**：DxO FilmPack 5でJPEG画像を保存する場合のデフォルトの品質を設定できます。
- **起動時にサイドバーの情報を表示する**：プログラム起動時に画面左側に表示されるサイドバーを表示または非表示にできます。

i イドバーの非表示設定は、サイドバーの左下のチェックボックスでも実行できます。

Facebookタブ

- **接続**：Facebookのアカウントへの接続を開始します。
- **アプリケーションを閉じるときに自動的にログアウト**：このチェックボックスをチェックすると、DxO FilmPack 5を閉じるときに自動的にログアウトするように設定されます。
- **保存**：Facebookタブで行った変更を保存します。
- **キャンセル**：行った変更をキャンセルし、プリファレンスウィンドウを閉じます。

銀塩フィルムのプリセットとデザイナーズ・プリセットを適用する

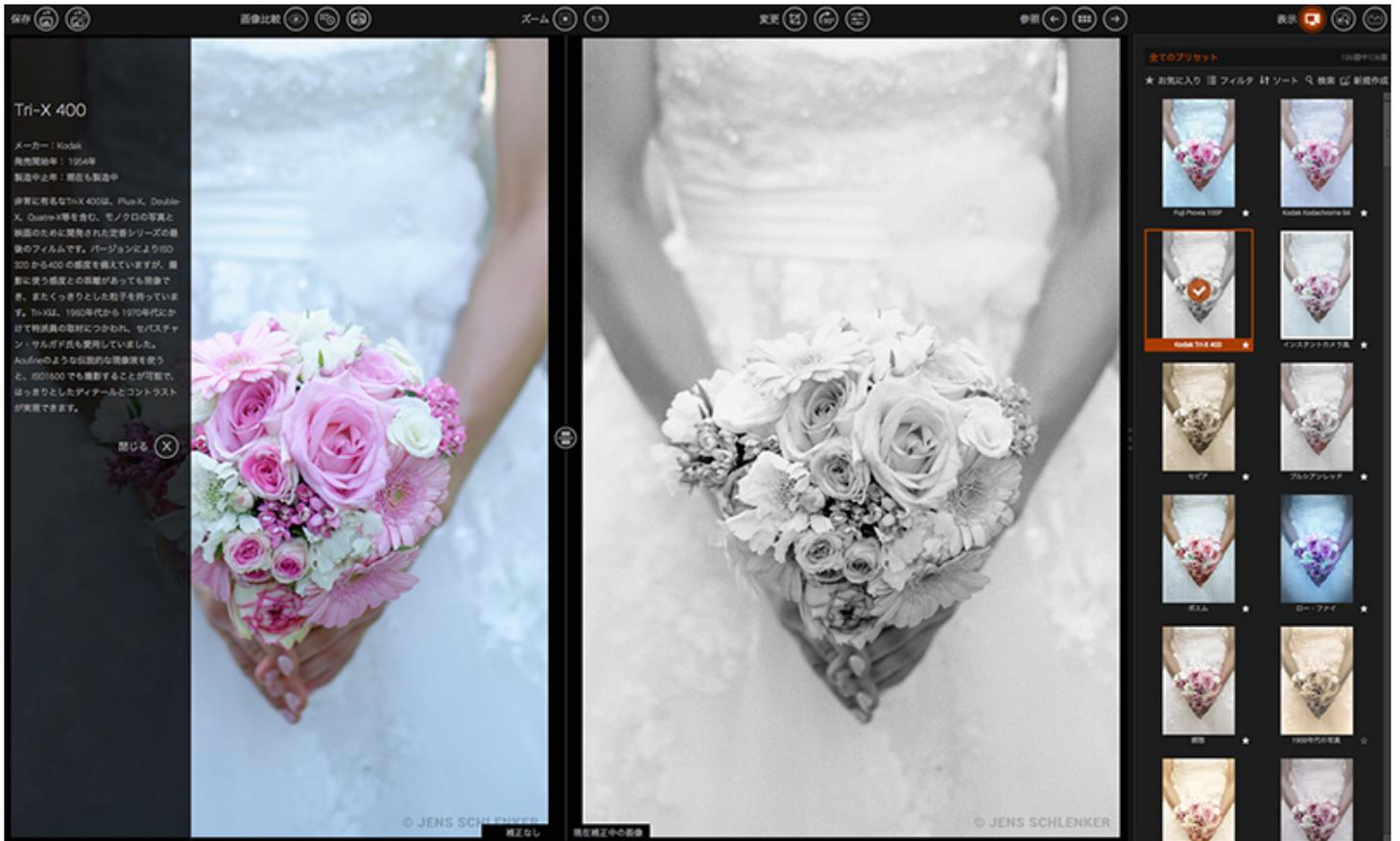
プリセットタブからカラーフィルムのプリセットを適用する



1. ファイルメニュー>ファイルを開くを選択するか、画像リスト内のサムネイル画像の上でダブルクリックをして画像を開きます。
2. コントロールパネル内で、プリセットのフィルタ機能を使って、編集したいプリセットのタイプを選択します。
プレビュー表示されるサムネイル画像から、自分が探している画像感に一番近いものを選び、サムネイル画像上でクリックします。プリセットは即座に画像表示エリアの画像に反映されます。
4. 選択されたプリセットのサムネイル画像にオレンジ色の枠が入り、画像上にチェックの入ったオレンジ色の円が表示されます。
5. コマンドバーにある保存メニューの、1番目の名前を付けて画像を保存ボタン をクリックするか、
ファイルメニュー>名前を付けて画像を保存を選択して画像を保存します。

 DxO FilmPackで利用できるカラーフィルムの全リストはこのユーザーガイドの付録を参照してください。

モノクロフィルムのプリセットを適用する



1. **ファイルメニュー->ファイルを開く**を選択するか、**画像リスト内のサムネイル画像の上でダブルクリック**をして画像を開きます。
2. **コントロールパネル**内で、**プリセットのフィルタ機能**を使って、**編集したいプリセットのタイプ**を選択します。
プレビュー表示されるサムネイル画像から、自分が探している画像感に一番近いものを選び、サムネイル画像上でクリックします。プリセットは即座に画像表示エリアの画像に反映されます。
4. 選択されたプリセットのサムネイル画像にオレンジ色の枠が入り、画像上にチェックの入ったオレンジ色の円が表示されます。
5. コマンドバーにある保存メニューの、1番目の名前を付けて画像を保存ボタン  をクリックするか、**ファイルメニュー->名前を付けて画像を保存**を選択して画像を保存します。

 DxO FilmPackで利用できるモノクロフィルムの全リストはこのユーザーガイドの付録を参照してください。

コントロールパネルからデザイナーズ・プリセットを適用



1. ファイルメニュー->ファイルを開くを選択するか、画像リスト内のサムネイル画像の上でダブルクリックをして画像を開きます。
2. コントロールパネル内のフィルタをクリックし、デザイナーズ・プリセットだけを表示します。
3. 様々なプレビューサムネイルから利用したいプリセットを選択して、サムネイルをクリックします。プリセットはすぐに表示ウィンドウに反映されます。
4. コマンドバーにある保存メニューの、1番目の名前を付けて画像を保存ボタン をクリックするか、ファイルメニュー->名前を付けて画像を保存を選択して画像を保存します。

諸補正ツールで画像を補正

コントロールパネルの諸補正ツールセクションには、様々な補正ツールが用意されています：

1. ライトとカラー：露出、彩度、自然な彩度の補正が出来ます。
2. コントラスト：コントラスト、マイクロコントラストの補正が出来ます。
3. 色相・彩度・明度：カラーコントロール（色調に関する補正）が出来ます。
4. トーンカーブ：コントラストと支配色の補正が出来ます。
5. 自動補正：ノイズ除去、光学補正、彩度過多の補正が出来ます。
6. チャンネルミキサー：色チャンネル別の補正

i ここで説明する補正ツールの一部はELITE版のみで利用可能です。その場合は、注記されています。

ライトとカラー

ライトとカラーパレットには以下の補正ツールがあります：

- 露出：スライダを使って、画像全体を暗くしたり（左に移動）、明るくしたり（右に移動）出来ます。
- 彩度：全体の彩度を上げたり下げたり出来ます。スライダを右に移動すると色鮮やかになり、左に移動するとグレーに近くなります。
- 自然な彩度（Elite

版のみ）：全ての色に作用する彩度スライダと比較すると、自然な彩度スライダは画像内の色の分布を考慮下上で作用します。スライダを右に移動すると、ホワイトバランスが変わらないようにグレーに近い部分を変えることなく、肌トーンを維持しながら空の青を和らげたり強調したりできます。スライダを左に移動すると、全体の彩度が下がりますが、完全なモノクロにはならず、赤の彩度が一番下がります。これにより肌トーンに自然な感じを与えます。スライダの幅は、-100～+100です。

i スライダのカーソル上でダブルクリックすると補正がリセットされます。

コントラスト



コントラストパレットは、画像のコントラスト、つまり明るいトーンと暗いトーンの差に作用します。また画像のディテールと質感を強調するマイクロコントラストにも作用します：

- コントラスト：画像の明るい部分と暗い部分の差を縮めたり広げたりします。スライダを右に移動すると、ホワイトがより明るく、ブラックがより暗くなり、画像にメリハリがつかます。左に移動すると、ホワイトが暗く、ブラックは明るくなり、画像がメリハリがなくなります。
- マイクロコントラスト（Elite版のみ）：画像の細かなディテールに全体的に作用します。
- 微細コントラスト（Elite版のみ）：マイクロコントラストの作用をより細かくしたツールで、均一の部分や、あまりディテールのない部分をそのままにしながら、画像のディテールと質感を強調できるツールです。

スライダの範囲は--~

+100 (スライダを右に移動) は、画像のディテールを徐々に上げ、0~-100 (スライダを左に移動) では、ディテールを和らげます。

マイクロコントラストをより選択的に行うために、オプション設定を使えます (Elite版のみ)。

- ハイライト：画像の最も明るい部分に作用します。
- 中間トーン：画像の中間トーンの部分に作用します (ヒストグラムの中間部)。
- シャドウ：画像の最も暗い部分に作用します。



マイクロコントラストパレットの補正ツールは、ディテールが多くある画像に有効です。左が元画像です。

Jラーコントロール：色相・彩度・明度 (Elite版のみ)

色相・彩度・明度ツールは、色を3つのパラメータ (色相・彩度・明度) を使って調節できます：

- 加法混色のRGB (赤、緑、青)
- 減法混色のCMY (シアン、マゼンタ、イエロー)

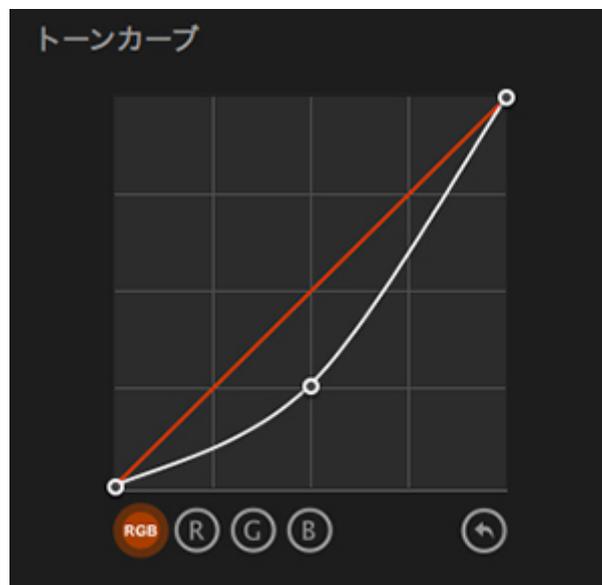


色チャンネルのドロップダウンメニューから色チャンネル（全部の色チャンネルか、6つのうちの1つ）を選択したら、以下のスライダで調整できます：

- 色相：選択した色チャンネルの色相を変更します。例えば黄チャンネルを選択している場合は、スライダを左に動かすと画像内の黄色がマゼンタにシフトし、スライダを右に動かすとグリーンにシフトします。補正は色相環の原則に従って-180°から+180°の間で動かせます。
- 彩度：選択したチャンネルの彩度を変更します。例えば黄チャンネルを選択している場合は、スライダを左に動かすと色はグレーに近づきます（0方向）。スライダを右に動かすと黄色が強くなりオレンジに近づきます。
- 明度：このスライダを動かしている時にヒストグラムを見ているとスライダの動きが理解しやすくなります。スライダを右に動かすとブラックポイントが右に移動します。グラフの上の方向に全体のトーン幅が圧縮されます。逆にスライダを左に動かすと、ホワイトポイントが左に移動して、値が低い方向に全体のトーン幅が圧縮されます。例えば黄チャンネルを選択している場合は、スライダを左に動かすと黄色が暗くなり、スライダを右に動かすと明るくクリアになります。

リセットボタンをクリックすると、全ての補正設定をキャンセルし、スライダの値をデフォルトのゼロに戻します。

ーンカーブ（Elite版のみ）



トーンカーブは画像全体のコントラストや（RGBボタン）、赤、緑、青チャンネル別のコントラストを調整（R、G、Bボタン）し、支配色を和らげたり強めたり出来ます。トーンカーブをマウスでクリックし動かすことで、画像の限定した部分の補正が出来ます。トーンカーブをリセットしたい場合は、矢印のリセットボタンをクリックしてください。

カーブをリセットするには、**全てリセット**  ボタンをクリックします。

自動補正 (Elite版のみ)



自動補正パレットには、以下の補正ツールが用意されています。利用できるツールは、画像形式によって変わります：

- **ノイズ除去 (RAW、TIFF、JPEG画像)**：ノイズ除去は自動で行われます。
- **光学補正 (RAW画像のみ)**：光学補正は自動で行われます。DxO FilmPack 5内でフォルダから画像ファイルを開くと、補正に必要なDxO光学モジュールが自動的にダウンロードを開始し、モジュールをインストールするかどうか、メッセージで聞いてきます。DxO光学モジュールがインストールされると、同じカメラとレンズの組み合わせで撮影された全ての画像に自動的補正が適用されます。
- **彩度過多補正 (RAW、TIFF、JPEG画像)**：画像の内容を解析し、自動的に彩度過多補正を行い、クリッピングが起こるのを防ぎます。

自動補正パレット内には、それぞれの補正に対応するボタンが表示されますが、画像形式によってDxO FilmPack

で自動補正されるものが変わるため、表示されるボタンの種類も変わります。ボタンをクリックすることで、自動補正を有効にしたり、無効にしたり出来ます。

チャンネルミキサー



チャンネルミキサーでは、加法混色 (RGB：赤、緑、青) や減法混色 (CMY：シアン、マゼンタ、黄) のチャンネル上で調整することで、モノクロ変換の調整を行うことができます。

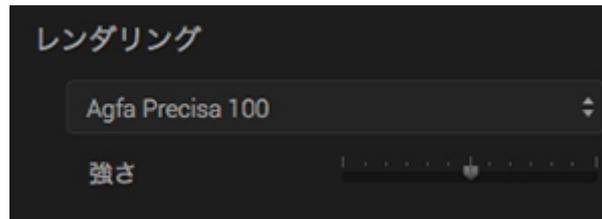
チャンネルミキサーは可変のフィルタと同じです。フィルタパレットのフィルタは色と強さが制限されますが、チャンネルミキサーでは様々な色と強さの組み合わせで利用することができます。

チャンネルミキサーを利用するには、どのチャンネルが明るすぎたり暗すぎたりしているのかを知る必要があります。チャンネルがわかったら関連するスライダを動かします。例えば黄色い対象物が写っている写真では、黄スライダを左に動かすと暗くなり、右に動かすと明るくなります。

i それぞれのチャンネルは他のカラーに近い色に影響します。設定は画像の効果を見ながら少しずつ行います。

フィルム・セクション

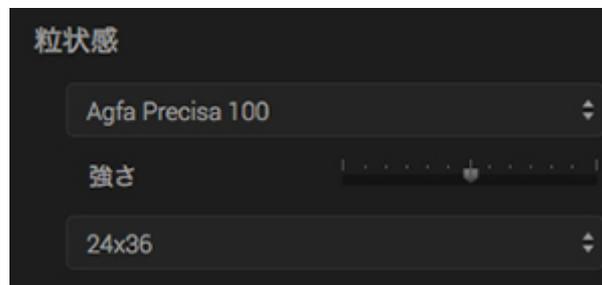
レンダリング



レンダリングパレットでは、ドロップダウンリストからフィルムタイプを選択することができます。

- サムネイルをクリックしてフィルムの特徴を一度に適用するプリセットとは異なり、フィルム・セクションでは、レンダリングとフィルム粒状感を別々に設定できます。

フィルム粒状感



フィルム粒状感について

写真感光乳剤内の銀の結晶や染料は、様々な形や大きさの結晶を持っています。これらは光量によってランダムなバリエーションを生み出します。結晶が大きく、形が不揃いになると結果として強い粒状感が現れます。粒状感は直接感度と関連しています。高感度フィルム（ISO値の高いフィルム）は露光時に影響を受けるよう大きい銀結晶を持っています。

フィルム粒状感パレットでは、以下のツールを使って銀塩の粒状感を調整できます：

- ・フィルム：ドロップダウンリストから特定の銀塩フィルム名を選択できます。
- ・強さ：値を変更して粒状感の強さを変更できます（デフォルト値は100、0にすると効果が無くなります）。
- ・サイズ：フィルムサイズに従って粒状サイズを変更できます（24x36、中判、大判、カスタムサイズ）。

- 現フィルムレンダリングを選択すると、すでに選択されているフィルムの粒状感が適用されます。粒状感なしを選択することもできます。

- ノイズ除去パレット内の輝度ノイズスライダを使って画像からノイズを取り除いてから、美しい銀塩粒状感を追加することができます。

粒子サイズの調整

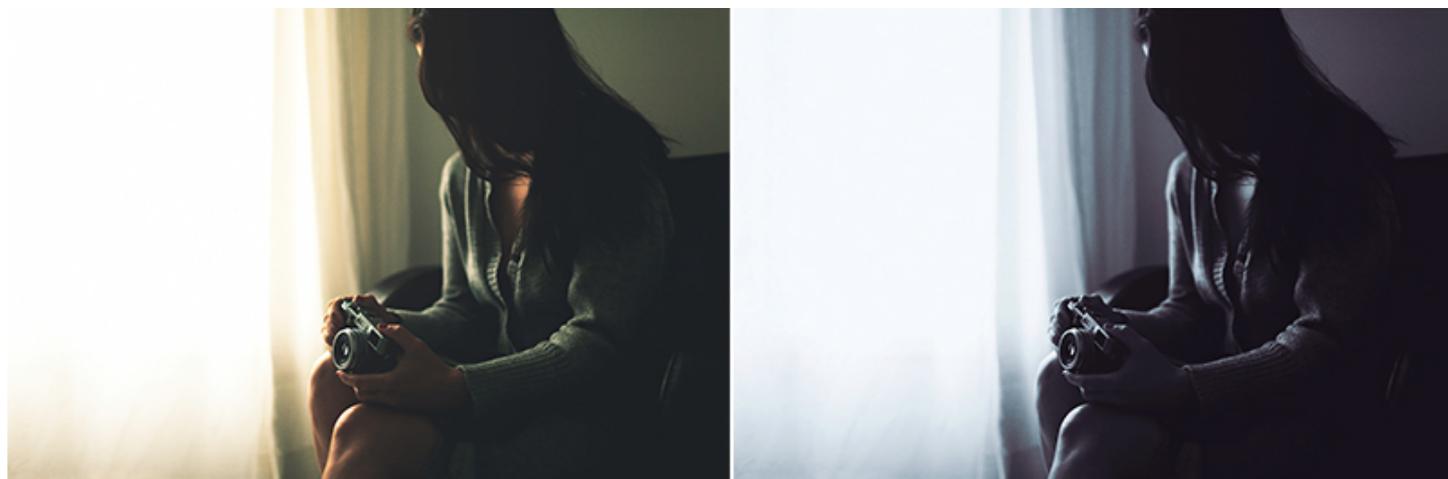
伝統的なワークフローの現像におけるフィルムの粒状感を十分に再現するためには、どのような拡大率でフィルム現像するのかということを考える必要があります。例えば同じサイズの粒状感を持つ大型フォーマット（4x5”）と小さいフォーマット（24x36 mm）の両方のネガフィルムから12x15”のプリントを作成しようとする、大型フォーマットでは3倍程度、小さいフォーマットでは10倍の拡大率になります。フィルムのフォーマットが小さくなると粒状感がより大きく表示されます。

フィルム粒状感パレットにあるサイズドロップダウンメニューから、あらかじめ設定されたフィルムサイズ（24x36、中判、大判）と、手動で作成できるカスタムサイズを選択できます。カスタムサイズでは1から10の間で粒子サイズを細かく設定することができます。

調色処理（ELITE版のみ）

調色処理について

通常の写真プリントでは銀の結晶で画像が形成されています。結晶の数が多くなり、またサイズが大きくなると画像は暗くなります。調色処理はこの純銀結晶を、様々な金属塩または銀を含まない染料で置き換える昔からの手法です。より微妙な中間トーンやシャドウの表現を可能にする見た目の美しさに加えて、プリントの保護という実際的な目的もありました。



左が元画像で、右が調色処理を分離して補正された画像です。
シャドウ部にはセレン、ハイライト部にはセピアを選択し、適用の強さを下げています。

調色処理の選択

調色処理の選択は、ハイライトとシャドウ部に分けて行います。ドロップダウンメニューには、パレットがあり、ハイライトとシャドウ部で別々の調色処理を選択できます。また以下のスライダを使って効果を調整できます。

- 強さ：ハイライトとシャドウの調色処理の強さを調整できます。スライダを左に移動すると弱くなり、右に移動すると強調されます。
- 分離：ハイライトとシャドウのバランスを調整できます（スライダを右に動かすとハイライトを優先し、左に動かすとシャドウを優先）。



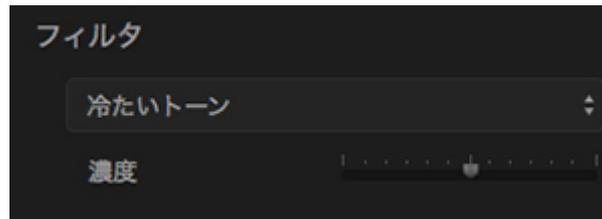
ハイライトとシャドウのどちらのボタンをクリックすると、それぞれの調色処理に対応した色つきの四角のパレットが表示されます（ボタンの上にマウスカーソルを持ってくると、調色処理の名前を示すツールチップが表示されます）。ハイライトとシャドウどちらでも、同じ種類の調色処理を選択できます。2種類同じものを選んだり、違うものを組み合わせたりと自分の好みに適用できます。

- 酸化鉄：灰緑色の表現になります。
- 金：
塩化金を利用した調色処理で、プリントの保護性を高める目的で利用されています。フラットでメタリックなブルーブラックになります。
- セレン：伝統的な調色処理で、主にプリントの保護目的のために使われます。主に紫がかった色が少し付きます。
- セピア：19世紀のアルブミン写真は天然のセピア染料で行われていました。1880年代にアルブミン写真が使われなくなると、多くの写家はプリントの保護目的や古いプリントに見せるために新しいゼラチン銀塩プリントをセピアで調色していました。今日では一般的に「セピア」が「古い時代の写真」と同義語で使われます。このセピアがセピアの中で最も暗い調色になります。
- 土色セピア：セピアより明るいセピアです。
- 金セピア：若干コールド（ブルー）調に仕上がるセピアです

適用対象ボタンを使えば、選択された調色処理を、テクスチャ、光漏れ、フレームに別々または全てに適用することができます。

レンズ効果

フィルタ



フィルタについて

レンズ前に装着する写真フィルタは、以下の3つのカテゴリに分類されます：

- 補正フィルタ：カラーフィルム撮影時に利用するフィルタで、フィルムが持つ色温度を変更します。例えば、白熱灯用のフィルムで太陽光の下で撮影するためのフィルタ85B や、その逆のフィルタ80A やB などがあります。
- 効果フィルタ：白黒フィルム撮影時に利用されるフィルタでは様々な効果を生み出します。昔から利用されているラッテン8 フィルタは、ブルーを吸収するイエローチントフィルタで、空のディテールを再現し一般的にコントラストを上げることができます。通常フィルタはその色の補色を吸収するので、フィルタ色は弱くなり補色が強調されます。
- PL フィルタ：特定の周波数の光線をカットして反射光を取り除きます。このフィルタは、デジタルで再現することはできません。

利用可能なフィルタ

以下のリストにある効果フィルタをフィルタドロップダウンメニューから利用することができます。フィルタを選択すると自動的に現れる濃度スライダーを使って、フィルタ効果の強弱を変えることができます。

- 冷たいトーン：このフィルタをかけることによって、暖かい光（赤～黄の範囲）の割合を下げ冷たいトーンを作成することができます。
- 青：風景写真にこのフィルタをかけて、霧がかかったような不思議なムードを出すために用いられる場合があります。
- 緑：モノクロ写真の中で木の緑が暗く見える場合、このフィルタをかけると葉を明るくすることができます。
- 黄：空の密度と品質を上げて、雲をくっきりとさせる古典的なフィルタです。
- オレンジ：すべてのオレンジフィルタは、青を暗くして同じような強さを持つ別の色のオブジェクトと区別できるようにします（例えば花と葉など）。オレンジが強くなると、効果が大きくなります。
- 暗いオレンジ：オレンジフィルタより強い効果を得られます。
- 赤：空を暗くし、強いコントラストがかかる強力なフィルタです。
- 暖かいトーン：冷たいトーン（青）の割合を下げ暖かいトーンを作成することができます。
- モーブ：モノクロ写真で利用します。このフィルタは赤と青を明るくし、黄色がかかったオレンジの濃度を上げます。
- シアン：冷たいトーンに色温度を動かします。風景写真では夕日の強い暖色を青系にシフトするのに利用されます。
- 明るいシアン
 - ：モノクロ写真で利用します。このフィルタは画像内の赤、黄、オレンジのエレメントの濃度を上げ、青いエレメントを明るくします。
- 青紫：
 - モノクロ写真で利用します。このフィルタは黄色と赤の濃度を上げ、ピンク、モーブ、紫の濃度を少しだけ抑えます。青は明るくなります。
- 紫：
 - モノクロ写真で利用します。このフィルタは特に暖かいトーンから画像の全体的なコントラストを強く取り除きます。青などの冷たいトーンは濃くなります。
- 明るいオレンジ
 - ：モノクロ写真で利用します。このフィルタは画像全体を明るくし、暖かいトーンのコントラストを下げます。青は比較的影響を受けません。
- 軽いオレンジ：モノクロ写真で利用します。このフィルタは画像全体を明るくしますが、明るいオレンジフィルタより弱い効果になります。
- ブラウン：モノクロ写真で利用します。このフィルタはオレンジフィルタのように機能しますが、さらにわずかな効果で濃度を残します。
- ピンク
 - ：モノクロ写真で利用します。このフィルタはブラウンやオレンジフィルタよりさらに濃い画像を作りますが、全体的にコントラストがフラットになります。
- マゼンタ：カラーポジ、カラーネガの両方に利用します。このフィルタは青い空にある雲を強調し、赤を明るく、緑を吸収します。

クリエイティブ・ヴィネット



ヴィネットは、光学的な要因により画像の周囲がセンターに比べて丸く暗くなったり明るくなったりする現象です。本来は光学的な欠陥ですが、写真中央に視線を集るためにクリエイティブな効果として利用されることがあります。



DxO FilmPack 5 では効果の中心位置を画像内の主題に合わせて移動することができます。

クリエイティブヴィネットパレットには以下の設定が用意されています：

- 強さ：マイナスに設定すると周辺部分が暗くなります（-100 で黒）。プラスに設定すると白くなります（+100 で白）。
- 中心点：スライダを左に動かすとヴィネット効果がエッジ方向に拡張され、スライダを右に動かすとヴィネット効果が画像センターに拡張されます。
- 境界推移：ヴィネットのぼけ幅を調整します。スライダを右に動かすとボケ幅が短くなりヴィネットが急にかかります。
- 円形：ヴィネットの形状を決定します。スライダを右に動かすと丸くなり、左に動かすと長方形になります。

- 中心を設定する：画像内の中心となる主題にあわせて、ヴィネット効果の中心点を設定することができます。

ブラー（ELITE版のみ）



ブラーヴィネットは、クリエイティブヴィネットと同様に、画像の周縁部に効果を追加しますが、画像の主題の周りをボカすことにより見る人の注意をひきつけます。



ブラーパレットには2つのツールがあります：ヴィネットは画像の主題の周りにヴィネット効果を追加し、ソフトフォーカスは画像全体に光彩拡散の効果を追加します。

ヴィネット

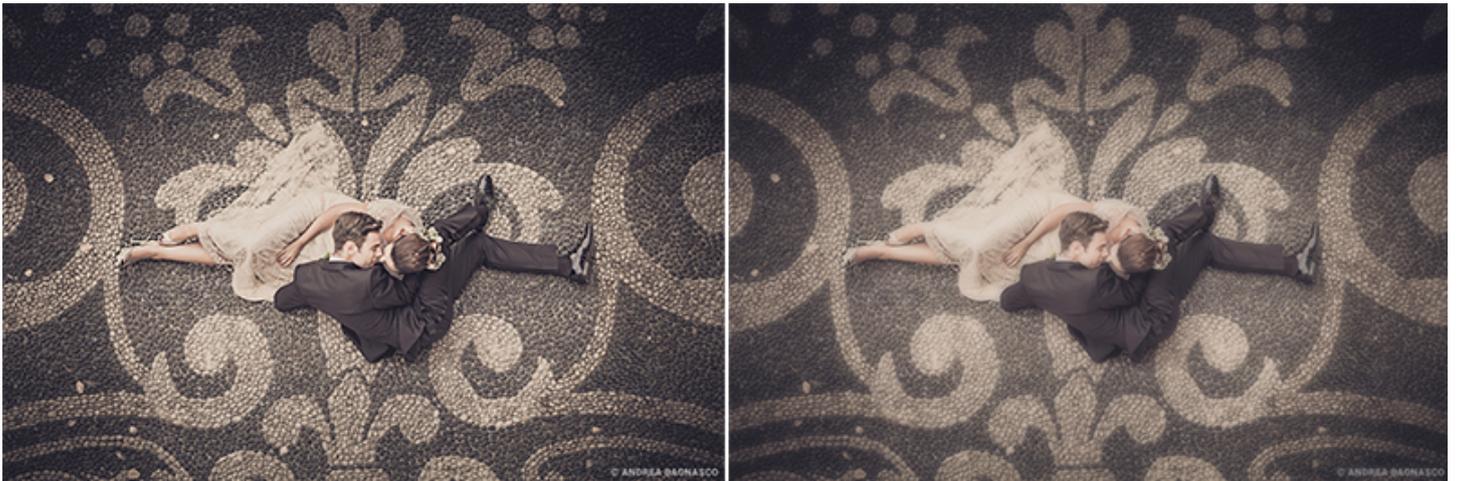
ブラー/ヴィネットパレットには、以下のスライダが用意されています：

- 強さ：デフォルト値の0 に設定されていると効果は適用されません。スライダを右に動かすと画像周辺のぼかしが現れてきます。最大値は100です。
- 半径：このスライダは、ぼかしの適用したいサイズをコントロールします。デフォルト値は50 で、画像のエッジから約50%の面積でぼかしがかかる設定になっています。スライダを左に動かすとぼかしの面積が狭くなり（0 で効果が無くなります）、スライダを右に動かすとぼかしがかかる面積が広がります（100 で画像全体がぼけます）。
- 境界推移：ヴィネットのぼかし幅を調整します。スライダを右に動かすとぼかし幅が短くなりヴィネットが急にかかります。
- 円形：ヴィネットの形状を決定します。スライダを右に動かすと丸くなり、左に動かすと長方形になります。
- 光彩拡散：強さスライダの値が0の場合、何の効果もありません。デフォルト値は50 ですが、スライダを右に動かすと画像にブラーが多くなり、左に動かすとシャープな画像になります。
- 中心を設定する：画像内の中心となる主題にあわせて、ヴィネット効果の中心点を設定することができます。

ソフトフォーカス



ソフトフォーカスは、画像全体に光彩拡散の効果を出し、夢を見ているような画像にします。

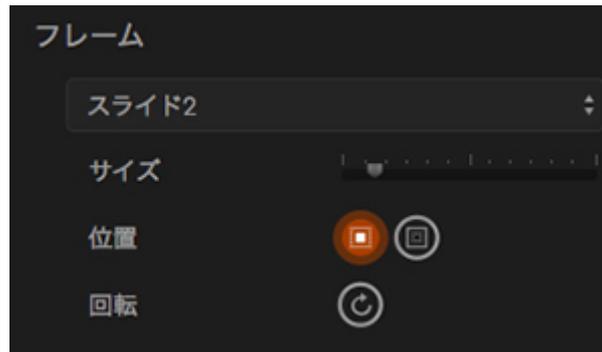


ソフトフォーカスパレットには、以下の2種類のスライダが用意されています：

- 強さ：デフォルト値の0 に設定されていると効果は適用されません。スライダを右に動かすと画像周辺のぼかしが現れてきます。最大値は100です。
- 光彩拡散：強さスライダの値が0の場合、何の効果もありません。デフォルト値は50 ですが、スライダを右に動かすと画像にブラーが多くなり、左に動かすとシャープな画像になります。

グラフィック効果 (ELITE版のみ)

フレーム



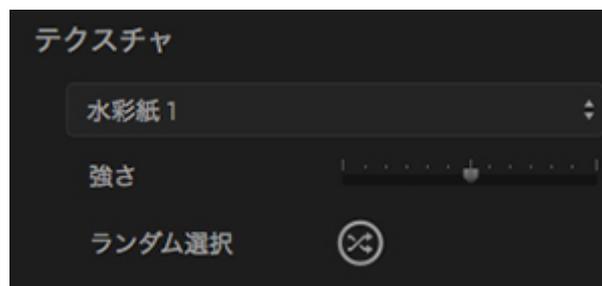
画像のエッジに様々なフレーム効果を適用することができます：



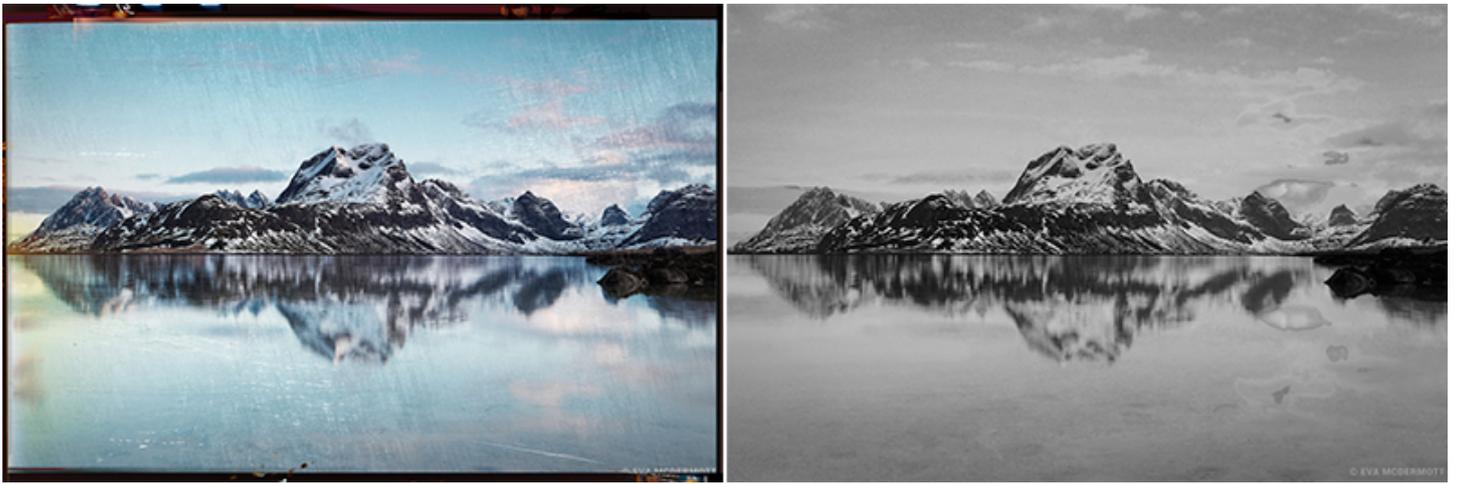
- フレーム：このドロップダウンメニューから、複数のフレーム設定を選択することができます（デフォルトではなしに設定されています）。
- サイズ：このスライダを使えば、画像に適用するフレームの幅を増減できます。
- 位置：画像の中ボタン（左側）は、フレームを画像の枠内に配置し、周辺の画像を少し隠します。画像の外ボタン（右側）は、画像を隠すことなく画像の外側にフレームを配置します。
- 回転：対象性の無いフレーム（スライドや暗室など）の適用の位置を変更できます。

i 画像の外側にフレームを設定すると画像のサイズが大きくなります。

テクスチャ



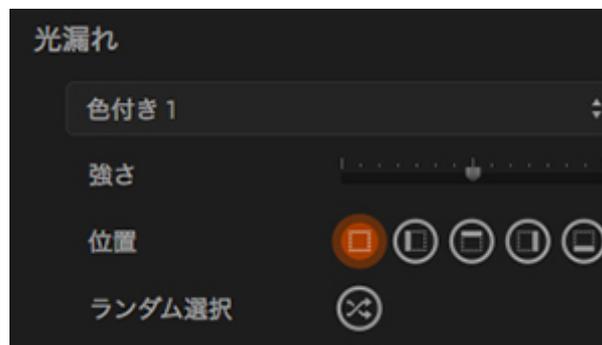
テクスチャパレットでは、フィルムの傷やしみを表現できます：



テクスチャ：このドロップダウンメニューから複数のテクスチャ設定を選択することができます（デフォルトではなしに設定されています）。

- 強さ：このスライダを左に動かすと効果を弱め、右に動かすと強くなります。デフォルト値は50です。
- ランダム選択：このボタン をクリックして行くと、画像内の効果の位置がランダムに変更されます。

光漏れ



光漏れツールではエッジ部分に問題を発生させ、時間が経過してしまった写真や、フィルムカートリッジから光が漏れた露出事故を演出することができます：



- 光漏れ：このドロップダウンメニューから、複数の設定を選択することができます（デフォルトではなしに設定されています）。
- 強さ：このスライダを左に動かすと効果を弱め、右に動かすと強くなります。デフォルト値は50です。
- 位置：5つのボタンで、光漏れの位置（画像の左、上、下、右）を設定することができます。
- ランダム選択：このボタン をクリックして行くと、画像内の効果の位置がランダムに変更されます。

ユーザ・プリセットとお気に入り（Elite版のみ）

ユーザ・プリセットの作成

DxO FilmPack 5

は、自分で設定した補正パラメータを使ってプリセットを作成することができます。別のプリセットをたたき台にしたり、全くゼロから始めることも可能です。全てはあなたの創造性にかかっています。自分のよく使うプリセットをお気に入りとして登録すると、それだけをまとめたり素早くアクセスすることができます（お気に入りプリセットセクションを参照）。ユーザ・プリセットとお気に入りプリセットは、他の内蔵されたプリセットとどのように検索したりフィルタすることができます（第3章のプリセットのフィルタを参照）。

 ユーザ・プリセットはDxO FilmPackのELITE版のみで利用可能です。

ユーザ・プリセットの編集

1. コントロールパネルから、プリセットのサムネイルをクリックして選択します。
2. 画面上部のコマンドバーの、変更メニューの3番目の画像の補正設定を変更するボタンをクリックして、補正ツールを表示します。
3. 画像の補正を実行します。
4. コマンドバーにある保存メニューの、2番目のユーザ・プリセットを作成し保存ボタンをクリックします。
5. ウィンドウが開いたら、プリセットの名前を入力します。
6. 保存ボタンをクリックします。
7. コントロールパネルが自動的にプリセット選択モードになり、作成したユーザ・プリセットが表示されます。

 画像上で右クリックをして表示されるコンテキストメニュー内でユーザプリセットを作成し保存を選択して、直接作成することも出来ます。

ユーザ・プリセットの変更、名称変更、削除

ユーザ・プリセットの変更

1. コントロールパネルから変更したいユーザ・プリセット（マイ・プリセット）を選択します。
2. 必要な変更を実行します。
3. コントロールパネルの下のプリセットに戻るボタンをクリックします。
4. 画面上のコマンドバーから、ユーザプリセットを作成し保存 ボタンをクリックします。
5. サムネイル上で右クリックして表示されるコンテキストメニューで現設定でのアップデート選択します。
6. ウィンドウが表示され、確認のメッセージが表示されたら、はいをクリックします。

 エクスポートしたユーザープリセットには“.preset”という拡張子が付きます。

 ユーザ・プリセットを変更すると、前に保存されていた設定が上書きされます。設定を残したい場合は、ユーザ・プリセットを新規作成します。新規作成する方法は、ユーザ・プリセットを保存のセクションを参照してください。

ユーザ・プリセットの削除

1. コントロールパネルから削除したいユーザ・プリセットを選択し、サムネイル上で右クリックします。
2. 表示されるコンテキストメニューで削除を選択します。

 削除できるのはユーザプリセットのみです。

ユーザ・プリセットのエクスポートとインポート (Elite版のみ)

ユーザ・プリセットのエクスポート

ユーザプリセットをエクスポートして、自分の設定を他の DxO FilmPack ユーザーと簡単に共有することができます。

1. コントロールパネルからエクスポートしたいユーザ・プリセットを選択し、サムネイル上で右クリックします。
2. エクスポートするメニューを選択します。
3. ダイアログボックスでプリセットに名前を付けて、書き出すフォルダを指定します。

i エクスポートしたユーザープリセットには“.preset”という拡張子が付きます。

複数のユーザプリセットがある場合は、一度に書き出すことができます：

1. ファイルメニューから全てのユーザプリセットをエクスポートを選択します。
2. ダイアログウィンドウで、プリセットを保存したいフォルダを指定します。
3. 選択をクリックします。

ユーザ・プリセットのインポート

他の人が設定したプリセットをインポートして使うことができます。

1. ファイルメニューからプリセットのインポートを選択します。
2. ダイアログウィンドウで、プリセットを保存したフォルダを指定し “.preset” という拡張子が付いたファイルを選択します。
3. 開くをクリックします。

ダイアログウィンドウが表示され、プリセットが問題なくインポートされたことを知らせます。プリセットは、コントロールパネルのマイ・プリセット (ユーザ・プリセット) の中から利用できます。

お気に入りプリセット

お気に入りタブに追加するには：

1. コントロールパネルから、プリセットを選択します。
2. プリセットサムネイルの右上にある星のアイコンをクリックします。

i お気に入りに登録されたプリセットには白い☆マークが付きます。プリセットのお気に入りを解除するには白い☆マークの上でクリックします。

i DxO FilmPack 4 から DxO FilmPack 5へアップグレードする場合、お気に入りプリセットもそのまま引き継がれます。

プリセットの検索

コントロールパネルをプリセット選択モードにし、検索をクリックすると入力欄が表示され、プリセットや銀塩フィルムの名前を入力できます。入力された名前に該当するプリセットのサムネイルが表示さ

スナップショット（Elite版のみ）

スナップショットについて

DxO FilmPack 5

のスナップショット機能を使うと、編集中の画像をどの段階でも一時的に保存することができます。保存したスナップショットは、ワークスペースの左側に隠れているパネルにサムネイルとして表示されます。処理中の画像を一目で分かるように一時的に保存できると同時に、同じ画像に適用した様々な編集を比べる場合にも利用できます。編集中はいつでもどのスナップショットにも戻すことができます。



スナップショット作成

1. DxO FilmPack内で画像を開きます。
2. 必要な補正を適用します。
3. コマンドバーにある参照画像を変更するボタンをクリックします。
4. ウィンドウが開いたら右上にある + ボタンをクリックします。
5. ウィンドウ内にスナップショットが新規作成されます。サムネイル画像の下のスペースに名称を入力し、Enterキーを押して保存します。
6. 作成したスナップショットは参照画像を変更するボタンをクリックするとウィンドウ内に表示されます

i 画像の上で右クリックし、コンテキストメニュー内でスナップショットを作成を選択しても同様です。またTキーを押すだけでも可能です。後は前述の手順5と6を行うだけです。スナップショットは何枚でも作成することが出来ます。

スナップショットの変更

1. スナップショットに変更を加えるには、まずコントロールパネルの補正パレットを使って画像の補正作業を行います。
2. 次に参照画像を変更するボタンをクリックし開いたウィンドウ内で変更したいスナップショットの上で右クリックします。
3. コンテキストメニューが開いたら、現設定で上書きを選択します。
4. 変更がスナップショットに保存されました。

スナップショットとの画像比較

1. 補正中の画像に対して、コマンドバーから、ボタンをクリックして、2画面並列プレビューにします。
2. 参照画像を変更するボタンをクリックすると、スナップショットがウィンドウ内に表示されます。
3. 現在作業中の画像と比較したスナップショットのサムネイル画像をクリックします。
4. 選択したスナップショットのプレビューが左側か上側に表示されます。

i をクリックして、1画面2分割プレビューにします。元の1画面プレビューにするにはボタンをクリックします。

スナップショットの適用

1. コマンドバーから参照画像を変更するボタンをクリックします。
2. スナップショットのウィンドウから、補正を適用したいスナップショットを選択します。
3. スナップショットを右クリックします。
4. ポップアップメニューから適用を選択します。
5. これでスナップショットが現在の画像に適用されます。
6. 別のスナップショットを適用するには、ステップ 1-4 を繰り返します。

スナップショット名の変更

1. スナップショットのウィンドウから、名称変更をしたいスナップショットを選択します。
2. スナップショットパネル内で、名前を変更したいスナップショットを選択します。
3. スナップショットを右クリックします。
4. ポップアップメニューから名称変更を選択します。
5. スナップショットの下に新しい名前を入力します。

 スナップショットのウィンドウの一番左の画像の名称変更は出来ません。

スナップショットの削除

1. スナップショットのウィンドウから、削除したいスナップショットを選択します。
2. スナップショットを右クリックします。
3. ポップアップメニューから削除を選択します。
スナップショットを削除して良いかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。削除をクリックするか、いいえをクリックしてキャンセルします。

バッチ処理（Elite版のみ）

バッチプロセスについて

バッチ処理は、複数の画像に対して同じプリセット設定を同時に適用する方法です。DxO FilmPack 5をスタンドアロンアプリケーション、プラグインのどちらのモードで使っているかによって方法が変わります。

スタンドアロン版

1. 画像リストの中から、バッチ処理をする画像を選択します。右クリックをして、コンテキストメニューからバッチ処理するを選択します。またはファイルメニュー > バッチ処理 (Mac) か、メニュー > ファイルを開く > バッチ処理 (Windows) を選択します。ダイアログボックスの中の左側に選択された画像のリストが表示されます。
2. ダイアログボックスの中の左側に選択された画像のリストが表示されます。
3. プリセットドロップダウンメニューから、バッチ処理する画像に適用したプリセットを選択します。
4. 形式ドロップダウンメニューから、出力画像の形式 (JPEGまたはTIFF) を選択します。
5. 品質スライダーを使って画像の圧縮に使う品質を選択します (最低5から最高は100)。
6. 出力先フォルダを選択します。元画像と同じフォルダ (デフォルト設定) か、別のフォルダを指定します。
7. 必要なら、出力ファイルにつく接尾辞を変更します (デフォルトでは“_DxOPF”)。
8. 処理ボタンをクリックします。

i バッチ処理では、ユーザープリセットを含むどのプリセットでも適用できます。

バッチ処理のダイアログボックス内では、処理する画像を追加したり削除したり出来ます。一旦画像を選択した後に追加する場合：

1. 画像のリストの下にある + ボタンをクリックします。
2. ダイアログボックスが開いたら、追加したい画像の入っているフォルダを探します。
3. 画像を選択します。
4. 開くボタンをクリックします。
5. 新しく選択した画像が追加されます。

画像を削除する場合：

1. 画像のリスト内で削除したい画像をクリックして選択します。
2. 削除ボタンをクリックします
3. 画像がリストから削除されます。

プラグインモード

Adobe Photoshop Lightroom

1. Adobe Lightroomで、バッチ処理をかけたい複数の画像を選択します。
2. 写真 > 他のツールで編集 > DxO FilmPack 5 メニューから DxO FilmPack 4 を開きます。
3. ダイアログボックスのフィールドで必要事項を選択します (詳細は“Adobe Photoshop Lightroom のプラグインとして利用”を参照してください)。
4. 編集ボタンをクリックします。
5. 新しく DxO FilmPack - バッチ処理ダイアログボックスが開きます。
6. 画像にバッチで適用したいプリセットを選択します。
7. 処理をクリックします。
8. 処理が正しく実行されたことを知らせるダイアログボックスが開きます。OK をクリックします。

処理が終わると、画像は Adobe Lightroom カタログ内に表示されます。表示オプションによって、オリジナルの横またはオリジナルにスタックされる形で表示されます。

Adobe Photoshop

Adobe Photoshop でバッチ処理を行う場合はアクションを作成する必要があります（詳細は Adobe Photoshop ユーザーガイドのアクションの作成についてを参照してください）。ここでは基本的な流れのみ紹介しています。

1. Adobe Photoshop を起動して、アクションパネルを開きます。
2. 新規アクションを作成して名前を付け、記録を開始します。
3. フィルタ > DxO Labs > DxO FilmPack メニューから DxO FilmPack 5 を開きます。
4. 効果やプリセットを適用して、保存をクリックします。
5. Adobe Photoshop のアクションの記録を停止します。
6. Adobe Photoshop のファイル > 自動処理 > バッチを開きます。
7. 設定を調整して、作成したアクションを選択します。
8. 処理を開始します。

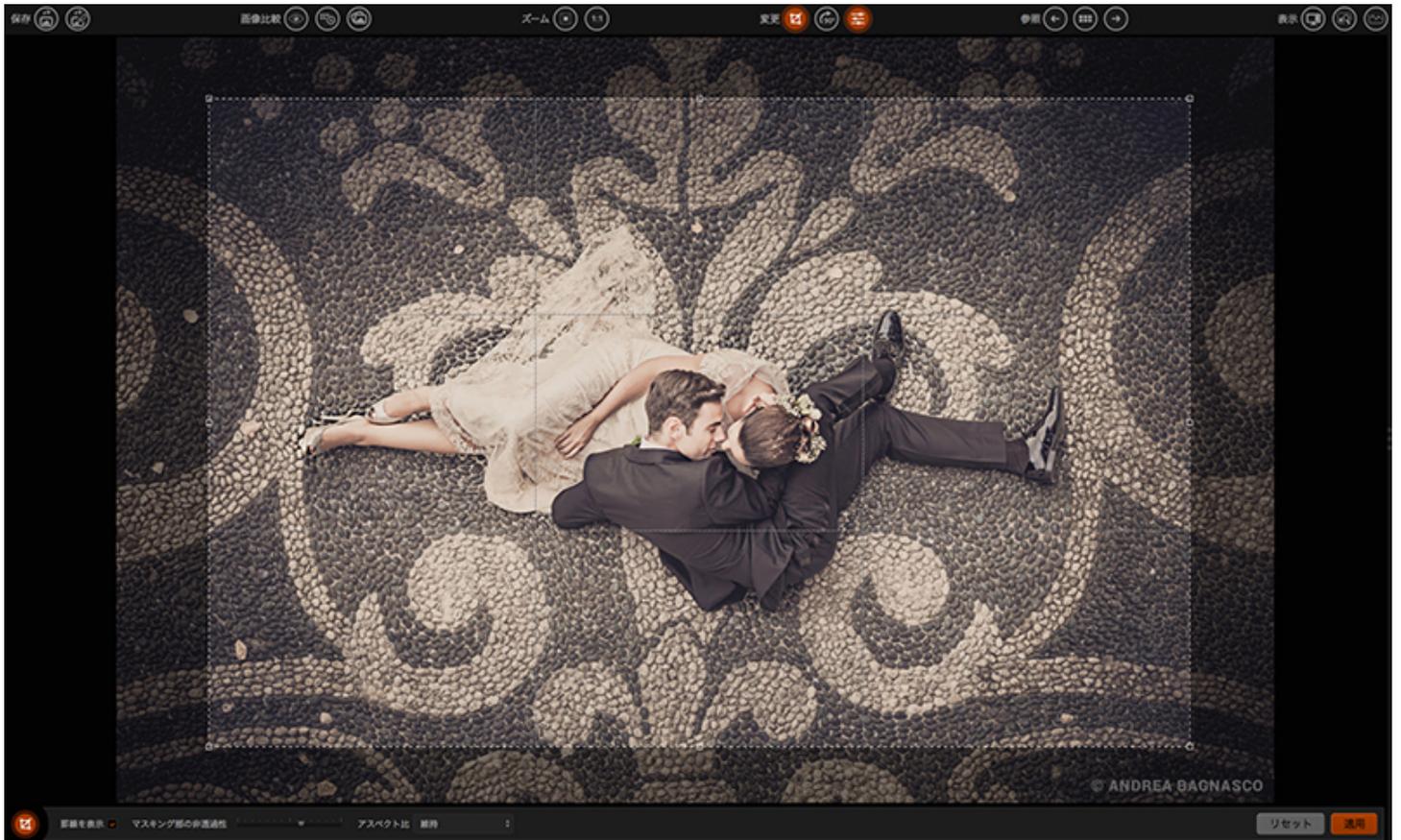
 DxO FilmPack 5 のプリセットや効果を適用するだけであれば、Photoshop で行うより DxO FilmPack のスタンドアロンバージョンを使う方が簡単です。DxO FilmPack のプリセット以外の操作を Photoshop で実行する場合には、Photoshop のバッチ処理を利用します。

Apple Aperture

1. バッチ処理を実行したい複数の画像を選択します。
2. 写真 > プラグインで編集 > DxO FilmPack 5 メニューから DxO FilmPack 5 をプラグインとして開きます。
3. プリセットを選択します。
4. ダイアログボックス内で処理をクリックします。
5. 処理が完了した画像は Aperture 内に表示されます。

クロップ

クロップツール



DxO FilmPackのクロップツールを使うと、画像の最終形状に自由に切り取ることができます。

1. DxO FilmPackで画像を開き、上部ツールバーにあるクロップボタンをクリックします。サイズ変更が可能なグリッドが画像内に表示されます。
2. クロップグリッドの両端や角にあるハンドルをドラッグして、切り取るサイズを調整します。クロップグリッド全体を動かして好きな場所に移動することもできます。
3. クロップを適用するには、画像表示ウィンドウの下のツールバーにある適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると設定がリセットされます。
4. ファイル > 別名で保存から変更した画像を保存します (DxO FilmPackをプラグインで利用している場合は保存ボタンをクリックします)。

i 画像の下のツールバーに表示される罫線を表示チェックボックスは、三等分割法線を表示したり非表示にしたり出来ます。画面が縦と横それぞれ3分割され、クロップする画像に対し三分割法を適用できます。

画面下のツールバー

{クロップ} ツールがアクティブになると画像の下にツールバーが表示されます。ここには以下のものが配置されています。

1. アスペクト比: このプルダウンメニューでは、予め設定された縦横比率のリストから好きなものを選択できます。カスタムで自分の好きな比率を追加したり、元画像と同じアスペクトを維持したりできます。
2. 三分割法表示: このチェックボックスをチェックすると画像内に構図を決めるための三分割法の罫線が表示されます。これは縦横3つに分割されており、最終的な画像の構図を決めるのに役立ちます。
3. マスキング部の非透過性: このスライダを使うと、クロップした残る部分の外側の部分を明るくしたり暗くしたり調節できます。
4. リセット: 適用したクロップをキャンセルし元の状態に戻ります。
5. 適用: 設定したクロップを画像に適用します。画像を保存しない限り、クロップをやり直すことができます。

Facebookへエクスポート

Facebookへエクスポートについて

DxO FilmPack から Facebook に直接画像を投稿できます（有効な Facebook のアカウントとインターネットへの接続必要）。



最初の接続

1. DxO FilmPack 5 メニュー > プリファレンス > Facebookタブ (Mac)、またはメニューボタン > プリファレンス > Facebookタブ (Windows) を開きます
2. ログインをクリックします。
3. デフォルトのインターネットブラウザが起動します。
4. Facebookの登録画面が開きます。Facebookへログインするための情報を入力してください。
5. ログインをクリックします
6. Facebookのダイアログボックスが開き、DxO FilmPackがFacebookのあなたのアカウントに承認されたことを知らせます。
7. DxO FilmPackに戻ると、ダイアログボックスでログイン（接続）されたことを知らせます。
8. DxO FilmPackを閉じるとき、自動的にFacebookのアカウントからログアウトしたい場合は、アプリケーションを閉じるときに自動的にログアウトをチェックします。

最初の接続

1. DxO FilmPack内で画像を補正する。
ファイルメニュー > Facebookにエクスポート (Mac)、またはメニューボタン > 名前をつけて保存 > Facebookにエクスポート (Windows) を開く。
3. Facebookに接続中のメッセージが表示されます。
4. 接続が完了すると、コマンドバーの下にウィンドウ (Mac)、ダイアログボックスが (Windows) が開きます。
5. このウィンドウ内で画像を投稿するアルバムを選択し、説明欄に入力し、必要であればアカウントを変更します。
6. アップロードボタンをクリックします（画像は自動的にリサイズされます）。
7. 進捗バーを表示するウィンドウが表示されます（この時点でアップロードをキャンセルできます）。
8. アップロードが終了したら、Facebook上で確認してください。

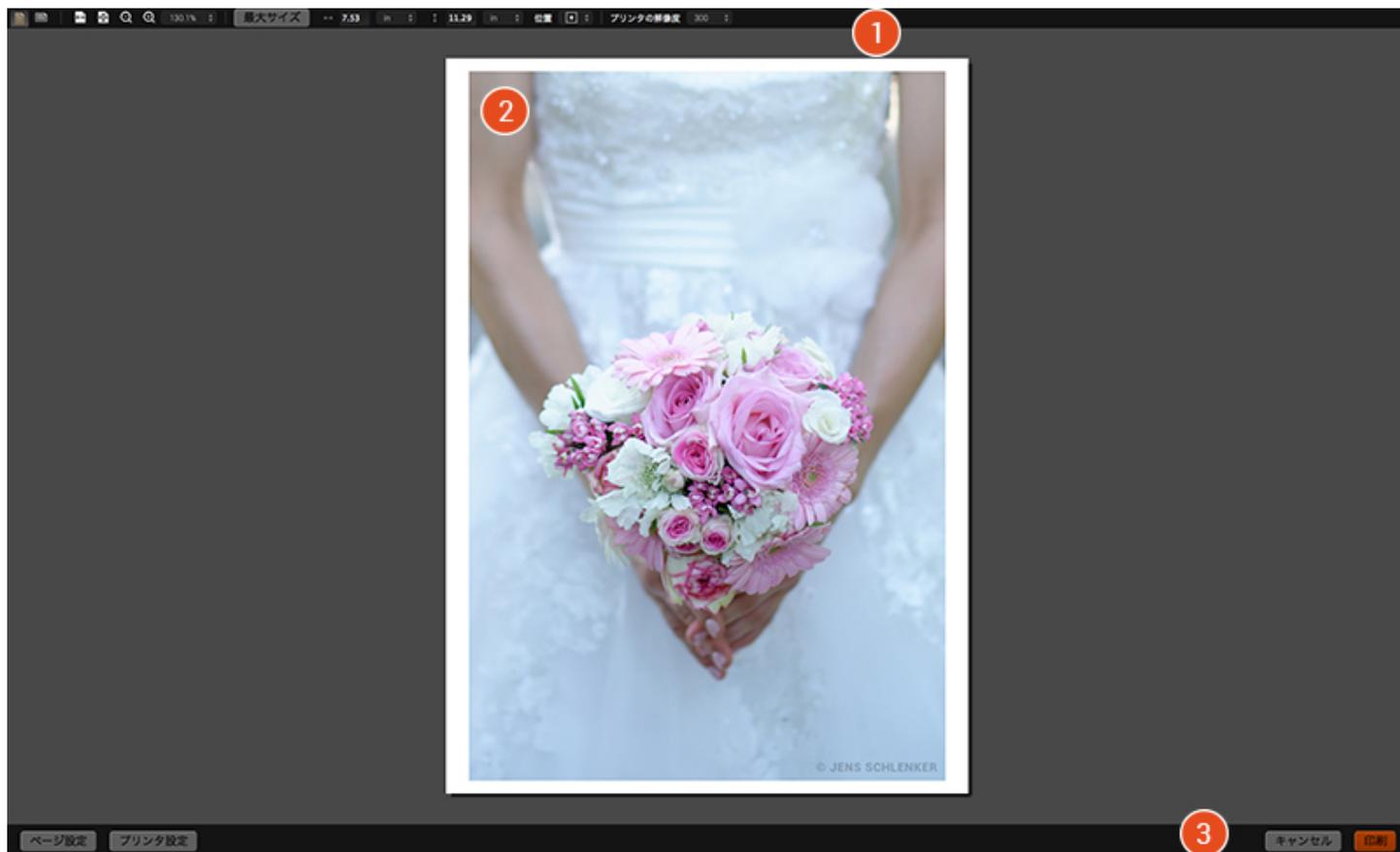
プリント

プリントについて

DxO FilmPack 5 のスタンドアロン版とプラグイン版から、直接写真をプリントすることができます。プリントウィンドウを開く方法は 3 つ用意されています：

- ファイルメニュー > プリント (Mac版)
- メニューボタン > 名前をつけて画像を保存 > プリント (Windows版)
- Raccourci clavier : Ctrl+P (PC) ou Cmd+P (Mac).キーボードショートカット : [Ctrl+P] (Windows版) または [Cmd+P] (Mac版)

プリントプレビューウィンドウ



プリントプレビューウィンドウは、角をグラブ&ドラッグすることでサイズ変更できます。このウィンドウは 3 つのパートに分かれています：

1. 上部ツールバー：向きやサイズ、位置、解像度などを設定します。
2. 画像表示エリア
3. 下部ツールバー：ページ設定、プリンタ設定、印刷、キャンセルボタンがあります。

i ページ設定や印刷をする前に、プリンタ設定を先に行う必要があります。

上部ツールバー

上部ツールバーには、以下のツールが用意されています：



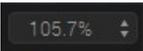
縦/横：プリンタドライバの設定を利用しなくても、ページの向きを変更することができます。



幅を合わせる/
ページを合わせる：プリントプレビューウィンドウ内の表示サイズを、幅いっぱいもしくはページサイズに合わせるすることができます。



縮小/拡大：画面のページサイズを拡大縮小します。



ズームメニュー：予め設定された拡大率を選択できます。または手動で数値を入力することができます（12.5% ~ 200%）。



最大サイズ：ドキュメントの最大プリントサイズにします。サイズは高さ&幅のフィールドに表示されます。



高さ/
幅：プリントされるページサイズです。フィールドをクリックすると数値を入力して変更することができます（一方のフィールドに入力すると、画像のプロポーションに合わせてもう一方のフィールドは自動的に変更されます）。



サイズ単位：インチ、センチメートル、ミリメートルから単位を選択できます。



位置：9つの選択肢から、ページ内の画像位置を設定することができます。



プリンタの解像度：3種類（180、360、720 dpi）の解像度から選択することができます。

解像度を選択する際はご注意ください。720

⚠️ dpiを選択すると、リサンプリング時に高いコンピュータパワーが必要になります。多くのプリンタでは、360 dpiで十分な品質を表現できます。

下部ツールバー

下部ツールバーには以下の機能が用意されています（左から右）：

- ページ設定：用紙サイズや向き、拡大率などの基本設定が含まれたシステムダイアログボックスを開きます。
プリンタ設定：プリンタドライバを開きます。プリンタの選択とプリンタ設定が行えます。用紙やカラーマネジメントモードを選択できます。
- キャンセル：プリントプレビューウィンドウを閉じます。
- 印刷：写真のプリントが開始されます。

プリント（Windows）

1. 上部ツールバーにあるプリントアイコンをクリックします。
2. 下部ツールバーにあるプリンタ設定をクリックします。
3. ダイアログボックスでプリンタを選択し、用紙サイズと向きを設定します。
4. プリンタドライバで選択できる場合は、カラーマネジメントモードを選択します（ICMまたはプリンタによるカラーマネジメント）。
5. プリントプレビューウィンドウに戻って、印刷をクリックします。

プリント（Mac）

1. 上部ツールバーにあるプリントアイコンをクリックします。
2. 下部ツールバーにあるプリンタ設定をクリックします。
3. ダイアログボックスでプリンタを選択し、用紙サイズと向きを設定します。
4. プリンタドライバで選択できる場合は、Color Sync、プリンタによるカラーマネジメントを選択します。
5. プリントプレビューウィンドウに戻って、印刷をクリックします。

付録 - フィルム索引

カラーポジフィルム

ESSENTIAL版と ELITE版の両方で利用可能

- Fuji Astia 100F : Fujiのポジフィルムのラインナップで、よりニュートラルな色を持つフィルムです。
- Fuji Provia 100F : 「世界中のISO 100のフィルムの中でもスムーズでシャープな画質」とFujiが自賛したこのフィルムは多くのプロから支持を得ました。Velviaよりは彩度が低いためスタジオでの撮影やポートレートにより適しています。
- Fuji Provia 400X : Provia 400 Fの後継として登場した彩度をアップしたフィルムです。
- Fuji Velvia 50 : 1990年に登場したVelviaポジフィルムシリーズは非常に高い解像度と細かい粒子、簡単な化学処理（E6）も手伝ってKodachromeシリーズに直接対抗するものになりました。世間ではVelviaの高彩度の色がKodachromeと比べて本来の色に近いかという議論に花が咲きました。これはVelviaが大きな商業的成功をおさめ、多くの人からポジフィルムの新しい基準と認識されたことを受けています。
- Kodak Kodachrome 25 : Kodachrome IIの後継として登場したフィルムで、1936年に発売されたKodachromeシリーズの直系です。この伝説的フィルムは一般市場向けに開発された最初のカラーフィルムで、色を出すためにゴドフスキーとマネスによって開発された減法混色を使っています。このフィルムの持つシャープさ、非常にリアルな色、保存のよさは、とても低い感度や複雑な現像処理というデメリットを大きくカバーするものです。
- Kodak Kodachrome 64 : 1974年にKodachrome-Xの後継として登場したフィルムで、どちらもオリジナルのKodachrome 25と比べて光量が1.5倍少なくても撮影できるという利点がありました。
- Kodak Kodachrome 200 : Kodachromeシリーズの中でも唯一の高感度フィルムで、1986年に登場しました。
- Kodak Ektachrome 100 VS : Kodachromeがプロとハイアマチュアの屋外撮影フィルムの定番だったのに比べてEktachromeは半世紀の間、スタジオ撮影の定番でした。非常に幅広い感度とフォーマット（シートフィルムの最大サイズ）があり、露光だけでなく処理も簡単でした（このシリーズの化学処理はハイアマチュアでも可能）。Ektachromeは一般的にポジフィルムの代名詞で、Ektachrome 100 VSはシリーズの中でも究極なフィルムで「鮮やかな高彩度な色」を誇っています。
- Kodak Ektachrome 100GX : これはEktachromeシリーズ内で100 VSよりは彩度の低いフィルムで、明るい肌のトーンと非常に細かい粒子が魅力です。
- Polaroid Polachrome : すぐに現像ができるポジフィルムです。
Generic Fuji Astia 100 : GenericのつくフィルムプロファイルはDxO FilmPackの開発当初の手法でフィルムのキャリブレーションを行って作ったプロファイルです。現在のキャリブレーション手法は改善されています（Astiaに関してはFuji Astia 100Fの項を参照してください）。
- Generic Fuji Provia 100 : Genericフィルムに関しては上記を、Proviaに関してはFuji Provia 100Fの項を参照してください。
- Generic Fuji Velvia 100 : Genericフィルムに関しては上記を、Velviaに関してはFuji Velvia 50の項を参照してください。
- Generic Kodak Ektachrome 100VS : Genericフィルムに関しては上記を、またEktachromeに関しては該当項目を参照してください。
- Generic Kodak Ektachrome 64 : Genericフィルムに関しては上記を、またEktachromeに関しては該当項目を参照してください。
- Kodak Elite 100（クロス処理） : カラーポジフィルムをネガフィルム手法で現像したものです（黄緑が強くなります）。
- ELITE版のみで利用可能
- Fuji FP 100 C : FujiのISO 100のインスタントフィルムでポラロイドカメラと互換性があります。
- Fuji Provia 400F : このISOレベルにおいては非常に細かい粒子のフィルムです。
Kodak Elite ExtraColor 100 : このフィルムはポジフィルムの中でも特に彩度の高いもので鮮やかな色を求める現代の流行とマッチしています。
- Kodak Elite Chrome 200 : Ektachromeの一般向けのフィルムで、E6の化学処理で現像できます。
- Kodak Elite Chrome 400 : このフィルムはKodakいわく「光量の少ない昼間の撮影でも豊かで鮮やかな色を実現」します。
- Polaroid 669 : 保護フィルムをはがして使う、中サイズでISO 80のインスタントポラロイドフィルムです。
- Polaroid 690 : 上記のフィルムの高感度バージョン（ISO 100）で、両方とも「Type 100」シリーズの一部です。
- Agfa Precisa 100 : AP44の化学処理（E6の化学処理のコピー）で現像するAgfaの有名なポジフィルムです。
- Fuji Sensia 100 : Fuji Astiaの一般向けバージョンです。

- Lomography X-Pro Slide 200 : 有名なAgfa RSX

IIポジフィルムのリバイバル・バージョンで、クロス処理時の、高彩度、高いコントラスト、独特なトーンが特徴的です。

カラーネガフィルム

ESSENTIAL版と ELITE版の両方で利用可能

- Agfa Ultra 100 : 2003年に登場した高彩度のフィルムです。
- Agfa Vista 200 : 全目的用で非常によい色のレンダリングと広い露出の許容度を持ったフィルムです。
- Fuji Superia 200 : このフィルムはKodak のGoldと直接的ライバルです。Superiaシリーズの中でも細かい粒子を持ったものです。
- Fuji Superia X-Tra 800 : Superiaシリーズ中、多目的のフィルムではもっともISO感度が高いものです。
- Kodak Portra 160
NC : プロのポートレートや結婚写真向けで肌のトーンの質の高さと服の色の忠実度の評価は高く、短期間に定番フィルムになりました。NCは「neutral colors (ニュートラルカラー)」の頭文字です。
- Fuji Superia 200 (クロス処理) : カラーネガフィルムをポジフィルムの手法で現像したものです (青が強くなります)。

ELITE版のみで利用可能

- Adox Color Implosion: 70年祖の雰囲気とはっきりとした粒子を持ったカラー・ネガフィルム
- Fuji Superia Reala
100 : Superiaブランドは多くのアマチュア向けに開発されました。これに対しRealaは、よりよいホワイトバランスのために新しいテクノロジー (4つ目の感光層) を使っています。この組み合わせはエキスパート・フォトグラファーにとって非常に好評でした。
- Fuji Superia HG 1600 : Superiaシリーズの高感度フィルムで、ハイアマチュアがコンサートでの撮影などに使っていました。
- Fujifilm Superia X-tra 400: 被写体の質感や色のニュアンスを完璧に捉えることの出来るカラー・ネガフィルム
- Fujicolor Pro 400h: 粒子が細かく、肌トーンを忠実かつ自然に再現できる高感度カラー・ネガフィルム
- Kodak Elite Color
200 : このシリーズの一般向けフィルムは「肌のトーンを犠牲にすることなく」比較的高い彩度を実現することを目的に開発されました。
- Kodak Elite Color 400 : 前述のElite Colorシリーズの高感度フィルムです。
- Kodak Portra 160VC : Kodak Portraシリーズのうちの「鮮やかな色」を特徴とするフィルムです。VCは「vivid colors (鮮やかな色)」の頭文字です。
- Kodak Portra 400: 細かい粒子、自然な肌トーン、明るい色が特徴のカラー・ネガフィルム。
- Lomography Redscale 100 : 非常にクリエイティブなフィルムでネガの反対側を露光することによりオレンジがかった色が特徴です。

モノクロフィルム

ESSENTIAL版と ELITE版の両方で利用可能

- Adox CHS 100 II: 古典的な粒状感を持ったモノクロ・ネガフィルム
- Agfa APX 25 : Agfapan 25は、既に生産中止になっているAgfa製の有名なフィルムで、粒子の細かさでは群を抜きISO 25という低い感度を持っていました。何十年にもわたり、露出の時間が問題にならない風景写真や接写写真の撮影に使われてきました。これはそのAPXバージョンでAgfaがKodakのT-grainシリーズに対抗して出したものです。
- Agfa Scala 200x: 既に生産中止のモノクロリバーサルフィルム。幅広いニュアンスを持ち、白はより鮮やかに、黒はより深く表現できます。非常に忠実なコントラストの再現性により、非常に細かい粒子で表面の凹凸や細かいディテールを非常によく表現します。
- Foma Fomapan 100 Classic: 高感度、露光の幅広さ、細かい粒子が特徴のモノクロ・ネガフィルム
- Foma Fomapan 200 Creative: 非常に高い解像度とざらつき感の少ないモノクロ・ネガフィルム。
- Foma Fomapan 400 Action: 低光量でも撮影できる高感度モノクロ・ネガフィルム。
- Fuji Neopan Acros 100 : 「ISO 100のフィルムで世界最高のクオリティーの粒子」を実現するとして登場したフィルムです。
- Ilford Delta 400 : 1990年に登場し、Ilfordの「コアシェル・クリスタル・テクノロジー」を基に開発されたフィルムでKodakのT-grainフィルムに対抗するフィルムです。粒子を大きくすることなく、より高感度の結晶を実現します。
- Ilford Delta 3200 : Ilfordの「コアシェル・クリスタル・テクノロジー」シリーズの超高感度バージョンでKodakのT-Max 3200に直接対抗するフィルムです。
- Ilford HP5 Plus 400 : KodakのT-Maxに対抗する古典的なフィルムでIlfordでは「中間コントラストフィルムで動きのある報道写真向け」としています。
- Ilford Pan 100: コントラストが弱く粒子の細かいが美しいグレー諧調をもったモノクロ・ネガフィルム。
- Ilford Pan F Plus 50 : 2004年、Ilford社は「非常に細かい粒子、素晴らしい解像度とシャープネスと輪郭のコントラストを持ったモノクロフィルム」として発売し、大きな拡大に適していました。適度なコントラストは多くの人に評価されています。
- Kodak BW 400 CN : 「世界で一番細かい粒子の色素生成フィルム」と製造元であるKodakが自賛するこのフィルムは普通のモノクロフィルムとは違い、現像すると銀の結晶ではなく染料が残ります。このフィルムのメリットは簡単なC41の化学処理で現像できるということです。
- Kodak HIE (High-Speed Infrared) : 赤外線は肉眼では見えないため、特別のフィルタを使って撮影する必要があります。この有名なフィルムは既に生産中止になっています。露出、焦点、現像どれも難しいですが、結果得られるクリエイティブな画像は非常に優れたものでした。
- Kodak T-Max 100 : Kodak T-Maxシリーズの一番感度の低いフィルムで、ISO 100 (200まで可能) でとても細かい粒子が得られます。古典的なフィルムです。
- Kodak T-Max 400 : 高感度モノクロフィルムの標準で、感度と粒子の完璧な組み合わせを持ったフィルムです。現場でルポするフォトグラファーのお気に入りでした。
- Kodak T-Max 3200 : 感度に大きな余裕があり (2-stopsあげてISO 12500まで可能)、低光量撮影や監視目的に使われていました。
- Kodak Tri-X 400 : 昔懐かしいTri-Xフィルムは半世紀以上に渡りフォトジャーナリズムの黄金時代に貢献しました。
- Polaroid 664 : 定評のある中間感度 (ISO 100) のポラロイドフィルムで、スタジオ撮影でのブルーフのために主に使われます。

ELITE版のみで利用可能

- Adox CMS 20: 非常に細かい粒子を持った超高感度モノクロ・ネガフィルム
- Adox Silvermax 21: 超微粒子を持ちコントラストの強いモノクロ・ネガフィルム
- Bergger BRP 400 PLUS: 屋外と屋内撮影用の高感度モノクロ・ネガフィルム
- Foma Fomapan 100r: 最後に発売されたモノクロ・スライドフィルム
- Fujifilm Neopan 400: このカテゴリーのフィルムでは粒子が細かい高感度モノクロ・ネガフィルム
- Fuji Neopan 1600 : 高感度ISO 1600のフィルムで、古典的な美しさを持つ粒子という評価を得ています。
- Ilford FP4 Plus 125 :

従来の写真撮影において非常に便利なフィルムで、様々なフォーマット（シートも含む）が利用できます。Ilfordによると「細かい粒子、優れたシャープネス、高いシャープネス、名目上のISO感度の上下に大幅な許容度を持ち、他社の追随を許さない」フィルムです。

- Ilford HPS 800：超高感度フィルムとしてはあまり知られておらず、ISO800 HPSは1960年後半にこのシリーズから無くなり、後にDelta 3200が代わりに登場しました。
- Ilford Pan 400: Pan 100と比較して、より感度が高くコントラストも強いモノクロ・ネガフィルム。
- Ilford XP2 400：ライバルとなるKodak BW 400CNと同様のISO 400のフィルムで、135と120のフォーマットがあります。簡単なC41の化学処理ができるという利点があります。
- Kodak HIE
filtered
：多くの赤外線フィルムは、可視光線を遮り赤外線のみを通す暗い赤または黒のフィルタを使って撮影されていました。こうして撮影された画像では、空は暗く、水は黒くなり、ハイライトの周りにオーラの様な光が現れます。
- Polaroid 667：高感度（ISO 3000）のモノクロパナクロパティックフィルムで、科学写真によく使われました。
- Polaroid 672：ポラロイドシリーズのISO 400の定番フィルムです。
- Rollei IR 400：最近出たISO 400の赤外線フィルムです。
- Ilford Delta 100：このフィルムはそれまでにない平たい形をした銀結晶を持ち、粒状感を増加させないで高感度表現が可能になりました。
- Agfa APX 100：M動かない被写体（建築、風景、静物）用に開発された高画質なフィルムで、多くのプロに愛用されました。
- Rollei Ortho 25：主に科学や複製目的で開発されたフィルムで、細かい粒子があり感度に関して2-stop余裕ができます。
- Rollei Retro 100 tonal：熟練したプロのフォトグラファーが使う非常に質の高いフィルムで、ISO 120とシートサイズがあります。
- Rollei Retro 80s：Rollei社がMaco companyと提携して開発したRetro 100と同様、非常に細かい粒子のフィルムです。これは航空写真を目的に作られたフィルムです。

モノクロフィルム

ESSENTIAL版と ELITE版の両方で利用可能

- Fujifilm Instax 120：明るい色と自然なトーンを再現するのに理想的なインスタント用フィルム

キーボードショートカット

メインメニュー

コマンド	Windowsショートカット	Mac OS Xショートカット
開く	Ctrl + O	Cmd + O
名前をつけて保存	Ctrl + S	Cmd + S
プリント	Ctrl + P	Cmd + P
閉じる	Ctrl + W	Cmd + W
バッチ処理	Ctrl + B	Cmd + B
終了	Alt + F4	Cmd + Q
元に戻す	Ctrl + Z	Cmd + Z
やり直す	Ctrl + Y	Cmd + Maj + Z
右に回転	Ctrl + R	Cmd + R
左に移転	Ctrl + L	Cmd + L
プリファレンス	Ctrl + Shift + P	Cmd + ,
全画面表示	F11	Cmd + Ctrl + F
コントロールパネルの表示 / 非表示	P	P
プリセットパネルの表示 / 非表示	F	F
スナップショットパネルの表示 / 非表示	S	S
ヘルプ	F1	Cmd + ?

ツールバー

コマンド	Windowsショートカット	Mac OS Xショートカット
画面プレビュー / 2画面並列プレビュー / 1画面2分割プレビュー	V	V
スナップショットを作成する	T	T
クロップツール	C	C
ズームイン / ズームアウト	Ctrl + + / Ctrl + -	Cmd + + / Cmd + -
スクリーンフィット	F3	Cmd + 0
ズーム率 100%表示	F4	Cmd + 1
ナビゲータ	N	N

全般

コマンド	Windowsショートカット	Mac OS Xショートカット
全画面表示モードの終了	Esc	Esc
1画面プレビューモードで補正前と補正後の画像の切り替え	Ctrl + D	Cmd + D
ハンドツールの一時的選択	Space bar	Space bar
最後に選択されたユーザプリセットまたはスナップショットの削除	Del	Del
スナップショット / プリセット / コントロールパネルの表示 / 非表示	F9	Cmd + 0